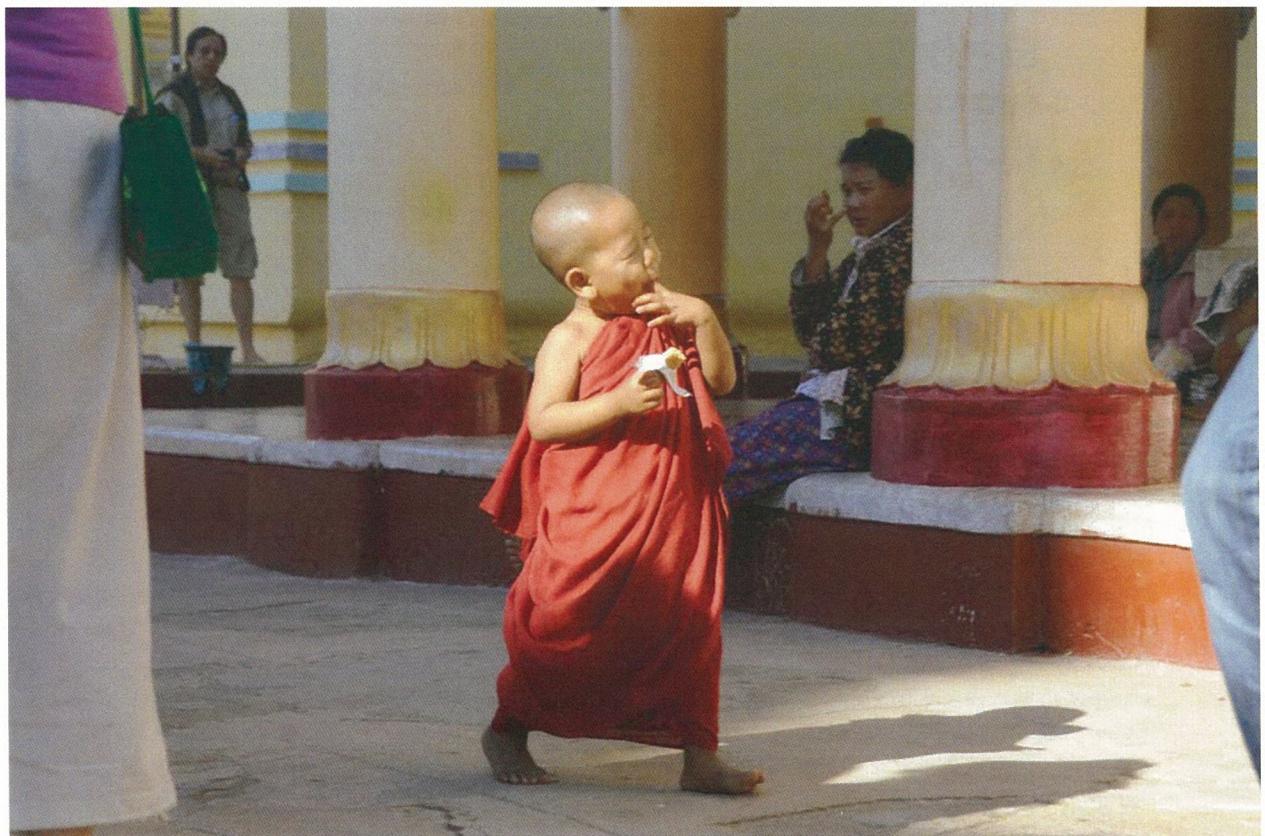




国際ロータリー第2760地区

2012年～2013年度

国際奉仕委員会報告書



2012-13年度 RIテーマ



田中作次

2012-13年度国際ロータリー会長

埼玉県、八潮市

2012-2013年度
国際ロータリーのテーマ

Peace
Through Service



奉仕を通じて 平和を

強調事項

ロータリー・クラブと地区による平和活動

- 1.クラブや地区の平和フォーラムを開催する
- 2.地域平和フォーラムを開催する
- 3.国際双子クラブによる協力関係を結ぶ
- 4.ロータリー平和フェローを推進する
- 5.紛争の根柢にある原因に取り組む奉仕プロジェクトを支援する

2012-13年度ロータリー世界平和フォーラムの推進

開催都市：ベルリン（ドイツ）	国境のない平和	2012年11月30日～12月2日
ホノルル（米国ハワイ）	平和にいたる縁の道	2013年1月25日～27日
広島（日本）	平和はあなたから始まる	2013年5月17日～18日

ロータリー歴

2012-13年度	国際ロータリー会長
2006-10年度	ロータリー財団管理委員
2003-05年度	国際ロータリー理事
1994-95年度	地区ガバナー

平和という概念は、人によって、文化によって異なります。心の平安や家族の幸せ、満足感を指す場合もあるでしょうし、人間の基本的ニーズが満たされた安全な状態を指すこともあるでしょう。平和をどのように定義するにせよ、それは奉仕を通じて達成できる目標です。

ロータリーにおいて、奉仕とは、片手間にすることでも、たまに取り組んでみることでもありません。奉仕とは生き方です。それは、思いやりの心を重んじることであり、調和へといたる道です。生活のあらゆる場面で奉仕を実践することによって、私たちは分かち合いの精神を育み、友好を見出し、平和の道を選ぶことができます。

2012-13ロータリーアンダードには、平和が私たちの焦点、そして目標となり、ロータリアンの皆さまには、「奉仕を通じて平和を」もたらすため、

積極的に活動していただくようお願いいたします。平和に向けた努力は、すべての人、家族、クラブ、地区、地域、そして国から始まると思います。

ロータリーの中核にあるのは、奉仕の力に対する信念です。奉仕を優先すれば、自分よりも他のニーズが優先され、考え方方ががらりと変わり、人々が抱える困難に対し、深い同情の心が生まれます。人々を助けよう、人々がもっと幸せになるよう自分にできることをしよう、という気持ちがさらに湧き上がります。自分の時間やリソースを惜しみなく与え、新しい考え方に対してもさらに心を開くことができます。それは、他人を変えようとするのではなく、すべての人やものが自分に何かを教えてくれること、毎日、新たな成長の機会が与えられることを認識することになります。

奉仕を通じて、私たちは、違いに対して寛容になります。感謝の気持ちを持てば、もっと相手を理解でき、あらゆる人の中に善を見出せるようになります。こうした理解を深めることで、他者への尊重の念が高まり、互いに対する尊重の念があれば、人々は平和に暮らすことができると思います。

ロータリーの奉仕は、さまざまなかたちで平和を助長します。私たちは、クラブと地区で、世界中の地域社会に健康、安全、人間の尊厳をもたらすために活動し、競争よりも協力、自分の儲けよりも公益に価値を置こうという気持ちが、私たち一人ひとりの中に生まれます。自分を見つめることを通じて、私たちは、完璧な人間などいないということ、そして誰もが人から何かを学べるということを理解します。

ロータリー独自の標語、「超我の奉仕」は、奉仕の最高のかたちを表しています。このような奉仕こそ、私たちが歩むべき道であると、私は信じています。この道はロータリアンが築いた道であり、世界のすべての人々が歩むことのできる道です。さらに深い思いやり、満足、寛容、理解へといたる道です。

「奉仕を通じて平和を」を標榜するなら、私たちは、自分たち、そして世界のために、さらなる平和へ向けて邁進していくことができるでしょう。

2012-13年度ロータリー世界平和フォーラム

国際理解、親善、平和の推進は、ロータリー運動の礎です。200以上の国と地域でロータリーが活発に活動し、その存在感を示すことは、「奉仕を通じて平和を」築く世界的リーダーとしてのロータリーの存在を確立するためにも重要です。ロータリーは、その歴史の中で、これらの分野において多くの功績を残してきました。しかし、将来にも目を向け、ロータリーの未来と世界平和の進展が今日の若者たちにかかっていることを認識する必要があります。より良い世界を後世に残していくには、意義ある活動に若者たちに参加してもらい、将来に向けてロータリーの平和構築運動を続けていくための力を与えなければなりません。

2012-13年度、国際ロータリーは3回にわたり「ロータリー世界平和フォーラム」を開催します。それぞれ3日間のフォーラムでは、ロータリアンや地域のリーダーとともに平和への決意を固めます。ベルリンでのフォーラムは「民主主義と自由」という価値をテーマとします。ホノルルと広島でのフォーラムは「若者」に焦点を当て、ローターアクター、インターアクター、青少年交換学生、ライラリアン、国際親善奨学生、ロータリー平和フェロー、学友、若きロータリアンのリーダーなど、新世代プログラムの参加者を交えて行われます。全地区から少なくとも2名の若者（上記に該当）が出席できるよう、各地区に援助していただけることを願っています。また、相互に対話が可能な中継放送を通じて、遠隔地よりフォーラムに参加できる機会も設けられます。詳細は、www.rotary.orgをご参照ください。

田中作次

2012-13年度国際ロータリー会長 田中作次

国際協議会でのRI会長の挨拶

皆さま、おはようございます。

この度は、2012-13年度ガバナーとなられる皆さまにお話をさせていただきますことを、誠に光栄に感じております。

長年、ロータリーは、私にとって人生の中心となってまいりましたが、1975年にロータリーへ入会した当初、それから私の人生がまったく違った方向に向かっていくとは、思ってもみませんでした。

ロータリーに入るまで、私の人生観はとても狭いものでした。貧しい家の8人兄弟の4番目として生まれた私を取り巻く人たちも、ほとんどが貧しい境遇にいました。週に一度、母と私は、市場まで20キロの道を、歩いて野菜を売りに行ったものです。日本人以外の方々とは、一度もお会いしたことがない、あの村が私の全世界でした。

ですから、私はいつも、旅することを夢に見ておりました。遠くの町や国を夢見ながら、どんな所なのだろうと想像したものです。

それ以来、幸いにも、頻繁に旅をする機会があり、自分で思いもよらないほど、世界のあちこちを見ることができました。しかし、ロータリーでの経験ほど私の視野を広げてくれたものはありません。

ロータリアンになるまで、私の目に入っていたものと言えば、仕事、家族、顧客、競争相手など、身近なものばかりでした。旅に出ても、お決まりのものしか見ていました。

その背景にあるもの、自分と関わりがないと思うものには、気にも留めていませんでした。

しかし、私はある日、推薦を受けて八潮ロータリー・クラブに入会しました。それから2年後、ある方が例会に来て、職業奉仕についてお話をしてくれました。私は、その日から少しずつ変わっていきました。収入や、売り上げを増やすことや、自分の会社をほかの会社よりも良くすることだけでなく、人として、職業人として、もっとよい、もっと高い目的を持って人生を送りたいと思うようになったのです。そしてそのためには、ほかの人たちの役に立つことが、私にとって人生で最も大切だと思うようになりました。

さらに私は、どんな些細なことでも、人を助けることがいざれば平和につながることに気づきました。

「平和」というのはよく耳にする言葉です。ニ

ュースでも、日常会話でも良く聞きますし、ロータリーでも頻繁に口にする言葉ですが、私たちは、「平和」とは何なのか、どういうことなのかを、あまり考えることはできません。

一番簡単なのは、「平和」ではない状態がどのようなものかを語ることでしょう。つまり、戦争や暴力や恐れることのない状態のことです。飢餓や、弾圧や、貧困を恐れることのない状態です。

また逆に、「平和」を、それが何であるか、どういう可能性を秘めているのかで定義することもできます。そういう意味では「平和」は、発言と選択の自由であり、自己決定の権利であると定義できます。安全で安心できる未来を意味し、安定した社会での人生と家庭を意味するとも言えます。

そもそも抽象的に言うと、「平和」とは幸福感や心の平穡、静けさであるとも言えます。

ですから、「平和」が何を意味しているのかは、人によって違うのです。どの定義が正しいとか、間違っているとかということではなく、自分にとって「平和」が意味すること、それがまさに平和なのです。

どのような意味でこの言葉を使うにしても、ロータリーでそれを実現することができます。

ロータリーは、保健、衛生、食糧、教育などの人々の基本的なニーズに、最も必要とされている地域で応えることができます。

そして、友情、つながり、思いやりといった、私たちの心のニーズにも応えることができます。

さらに、国や民俗間の友情と寛容を推進することで、ロータリーは、最も伝統的な意味での「平和」を、つまり、互いを理解し合う後押しをしてくれるのです。

ロータリーの奉仕を通じて、私たちは、大きな問題のように見えることでも、力を合わせれば、すぐに解決できることを学びます。人を思いやることを学びます。自分と違った境遇の人々と知り合ふことで、人はみな同じであると理解できます。

ロータリーの奉仕を通じて、私たちは、何かを達成しようとするなら、対立より協力を選ぶのが得策であることを知ります。ほかの人の長所と短所、両方を尊重することを理解します。そして、どんな人からも必ず得るものがあり、教えられるものがあることを学びます。

私は、「超我の奉仕」は単なる標語ではないと考えております。それは、誰の人生をも、さらに豊かで、有意義なものにする、生き方を示していくと思います。

ロータリアンは、自分よりも、ほかの人のニーズを重視します。自分のためだけではなく、社会全体のためを考えます。「超我の奉仕」という言葉は、人生で本当に大切なこと、エネルギーを注ぐべきことは何なのかを、私たちに教えてくれる言葉です。そうすることで、より平和な世界の基盤を築くことができると考えます。

そこで私は、2012-13年度のロータリーのテーマを、「奉仕を通じて平和を」といたしました。

それは、「平和」をどのように定義するにしても、私たちは奉仕を通じて、平和をもっと現実に近づけることができるからです。

また、「超我の奉仕」は、人はみな自分だけでは生きていけないということを教えてくれます。人との関わりのない人生は、空しく、つまらないものですが、家族、地域社会、そして人類全体における自分の役割を常に意識して、つまり、人のために生きることで、この世界における自分の役割がはっきりと見えてくるのです。

私の世代は、戦後に日本で育った最初の世代でした。ですから、私たちが、それほど平和を重視するのは、当たり前かもしれません。日本で軍国主義の台頭の結果を経験した私たちの世代は、自分たちの考え方を変え、平和を選ぶ大きな決断をし、その結果、目覚しい経済発展を目指しました。

この決断があってこそ、日本は成長と繁栄を遂げることができたと思います。これによって、次世代の子供たちが安全な暮らしを送り、教育を受け、暮らしを向上させることができたのです。この決断は、日本人の世界に対する見方と、自国に対する見方を根本的に変えました。日本人は心を開き、寛容を学び、もっと深く世界を理解するようになりました。

さらに、平和を選択したことによって、私たちはより前向きな目標に力を注げるようになりました。個人のニーズより、社会のニーズを重視するのは、日本の文化と切り離せない、伝統的な価値観です。2011年3月の大地震と災害後の苦しみを乗り越え、復興に努力できたのも、この価値感があったからです。

これは、日本以外の国々にとっても、良い教訓であると感じております。他者のニーズが、自分自身のニーズよりも大切だと思え、社会全体のための共通の目標に向かって力を合わせることができるようになれば、世界に対する見方、関わり方、価値観など、すべてが變るようになります。

そして何よりも、平和というものに対する考え方方が変ります。

私は、「奉仕を通じて平和を」という概念に、難しい哲学はないと思っています。私は、哲学者ではありません。一介のビジネスマンです。ただ、ビジネスマンとしての長年の経験から、私は、事業を成功させるには、顧客の満足を追求する以外にないという結論に達しました。顧客に喜んでもらえれば、事業も成長します。そうすれば私自身も幸せになれる。しかし、それは事業が成功しているからだけではなく、人を幸せにしてあげることができたという認識があるからです。

事業においても、人生においても、目標を達成したいなら、まず方向性を定めなければなりません。ロータリーは、RI 戦略計画の目標と優先項目を、組織全体のロードマップとする決断を下しました。

2012-13年度には、地区内のクラブにおいて「クラブのサポートと強化」、「人道的奉仕の重点化と増加」、「公共イメージと認知度の向上」という、RI 戦略計画の 3 つの優先項目に、一層の力を注いでいただくよう、皆さんにお願いしたいと思います。

また、広島、ベルリン、ホノルルで開かれる3回のロータリー世界平和フォーラムの推進にも、ご協力をお願いいたします。本協議会中に、この重要な行事について皆さんに情報が提供されます。皆さまの多くが推進に関与されるとともに、優先してご出席いただけることを願っております。

ロータリーのビジネスは、利益の追求ではなく、平和の追求です。ですから私たちにとって、報酬はお金を手に入れるではなく、自分の努力によってより良い、より平和な世界が実現するのを見届けることがあります。

皆さん、本年度、「奉仕を通じて平和を」を、ロータリー活動の最重点としていただくようお願いいたします。

また、どのように定義するにせよ、「平和」がロータリーにとって究極の、そして実現可能な目標であることをご理解ください。平和は、協定や、政府や、大胆な闘争だけで達成するものではなく、日常の簡単な方法の積み重ねによって成し遂げるものであります。

ガバナーとしての一年間、「奉仕を通じて平和を」の精神をもって、ロータリーの究極の目標である平和な世界に向けて邁進していただくようお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

経歴

田中作次氏は、株式会社ダイカ会長、全国家庭紙同業界連合会会长、八潮市商工会副会長を務められました。

1975年に八潮（やしお）ロータリー・クラブの創立会員としてロータリーに入会して以来、RI 理事、ロータリー財団管理委員のほか、2009年バーミンガム国際大会委員長をはじめとする各種委員会の委員と委員長、ロータリー財団地域コーディネーター、地区ガバナー、研修リーダーを歴任されました。自身が所属する地区では、バングラデシュに学校を建設する活動に献身されました。

RI 超我の奉仕賞およびロータリー財団の功労表彰状と特別功労賞を受賞された田中氏は、京子夫人とともにポール・ハリス・フェロー、恒久基金ベネファクター、大口寄付者、そしてアーチ・クランフ・ソサエティーのメンバーとなっています。このほかにも、ロータリー平和フェローシップ基金を設立されました。

京子夫人とは1963年にご結婚され、現在、埼玉県八潮市にお住まいです。3人のお子さんと6人のお孫さんがいらっしゃいます。



田中作次夫妻

2012～2013 年度 地区国際奉仕委員会



委員長 佐藤 文昭

国際奉仕をこの 1 年振り返ってみて、私は各クラブの取り組みが国際奉仕イコール世界社会奉仕 (WCS) という考えが、浸透しているのではないかなどと思いました。

そこで、国際奉仕の歴史を少し見つめなおすと当初アメリカ以外にロータリーが拡大したことを見てロータリアン同士やロータリアン子弟の相互訪問が行われた。これが外国のクラブ同士の交流に発展したということです。又、世界大戦も大きな係わりをもち、避難民に対する物資援助とか傷病兵に対する慰問等奉仕する活動が増加してきました。

友情と親睦の絆によって国際理解を深め世界の恒久的な平和を実現しようという熱い思いがあったということです。今年は田中作次 RI 会長とあって、リスボン世界大会には多くの日本人ロータリアンがリスボンに集まりました。これが、国際奉仕の交流の一つであると考えています。今後も増え国際社会の中に入って国際奉仕の真の奉仕を味わっていただきたいと思います。

- クラブ名 2760 地区 南尾張 分区 半田ロータリークラブ
○ 会長名 榎原 正治
○ 国際奉仕委員長名 山本 好幸
○ プロジェクト名 ブータン王国への図書寄贈
○ 実施先国名 ブータン王国
○ 実施先都市名又は地域名 ブータン王国首都ティンブー
○ 実事業費合計金額（円） 200,000 円
○ プロジェクト概要
半田ロータリークラブ国際奉仕活動として、ブータン王国を訪問し、小中学校に図書を寄贈する

愛知万博開催時、パビリオンのお手伝いの関係で半田市とブータン王国が

知り合うきっかけとなり、その後、半田ブータン交流協会が設立されました。

半田ブータン交流協会は、半田市とブータン王国の青少年交流等をとおして

互いの文化、風習、生活などを理解し、両国の友好交流をはかるとともに、

両国青少年の健全育成を目指した活動をしています。その活動の中で、

ブータン王国の小中学校では図書館の本が圧倒的に不足し、数少ない図書を

本が磨り減るまでみんなで読んでいる状況に直面し、半田ロータリークラブ

として図書館への本の寄贈事業を開始し本年で3年目を迎えます。今年は

2月25日～3月1日にメンバーの松石君がブータンを訪問し、図書の寄贈を行ってきました。

まだまだ本が不足しているとの現地からの報告があり、

半田ロータリークラブとしても、できる限り継続していきたいと考えて

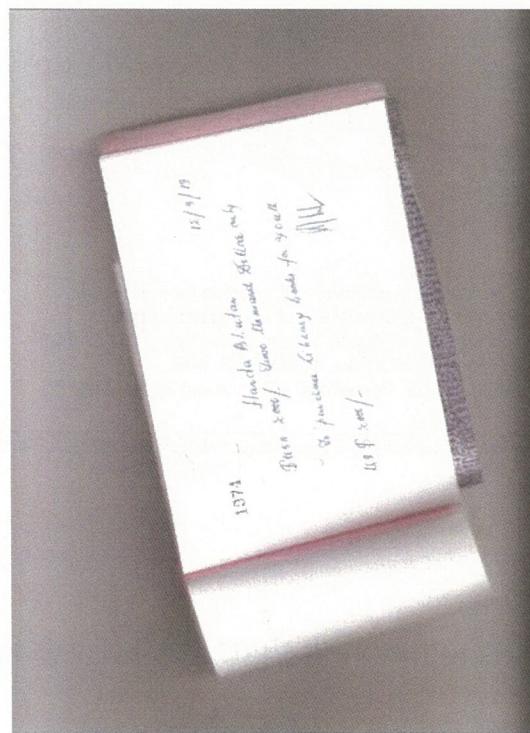
います。



ブータン王国に図書の目録を贈呈



ブータン王国内務大臣より感謝の記念品をいただきました



半田ロータリークラブからの寄贈の本に張るシール



ରୂପଭାବମୁଦ୍ରଣ ଏକାଡେମୀ
Royal Government of Bhutan
Ministry of Education
Department of Youth and Sports



DYS/Mins20/2012/1680

12th March, 2013

Chairman,
Handa-International Association
Handa-Bhutan Youth Friendship Association
Handa-City, Aichi, Japan

Subject: Acknowledgement

Sir,

We are pleased to inform you that we have received US \$ 2000 that your Association sent us to procure library books through Mr. Thinley Wangchuk, Director General, Department of Immigration, Ministry of Home and Culture Affairs. The amount has been converted to our currency @ of Nu. 53.50 on 12th march 2013 and the total amount came to Nu. 1,07,000.00 (One hundred seven thousand) only and it has been deposited in the CD account under Youth Center Division. We have also received sticker mentioned 2013 Donation from Handa Rotary Club & Bhutan Youth Friendship Association. As intimated earlier, the above donation will be utilized to procure relevant books for our library for the benefit of youth and children.

We would also like to thank you for inviting 4 youth and a teacher to participate in cultural exchange programme in this coming summer. We would appreciate if the programme is organized in the beginning of July and we very much look forward to participate in the programme. We are enclosing a scanned copy of the official receipt of the money and will also send you the list of books as soon as the procurement has been completed.

We would like to thank Handa-Bhutan Association for the generosity and for your continued support. It is through the positive efforts of people like you that we can make a difference in the life of our children and youth.

Thanking you,

Yours Sincerely,

(Chencho Dorji)
DIRECTOR

Copy to:

1. Hon'ble Secretary, Ministry of Education for information
2. Director General, Department of Immigration, MoHCA
3. Chief Programme Officer, Youth Center Division, DYS, MoE
4. Chief Programme Officer, SCED, DYS, MoE
5. Accounts Officer, Department of Youth and Sports, MoE

Post Box No. 587, Harmony: the Centenary Youth Village, Thimphu, Bhutan, Tel: Director: +975 2 335546, PA: 325084, Fax: +975 2 325199,
www.education.gov.bt

ブータン王国へ半田市の子供を招聘する正式文書をお預かりしてきました。

タイ障害児への車椅子支援

昨年実施予定の支援を大洪水のため訪問を中止し、車いす18台とバリアフリー工事用の支援金のみ贈呈したが、今年度は11/6～9の日程で「タイ障害児への車椅子支援」のために会員他9名でバンコクまで出かけました。

まず、現地でタイ障害児への車椅子支援を行っている「WAFCA」のスタッフとノンタブリー県にある車いす組み立て工場「タイウイール工場」にて実情の説明を伺い、今回寄贈する車いす11台の内、2台の組み立て体験を全員で行い、その後その車いすと一緒に「特殊教育センター」へ出かけ、子ども達や家族、センターのスタッフと交流し、車いすの寄贈を実施しました。

次に、車いすを受け取る障害児の内、1の自宅を訪問し、そこでも本人・家族と交流を行いました。

とかく家の中での生活が多くなりがちな障害児にとって、家族の介助の負担軽減、通学できる喜び等車いすの存在は非常に重要で、また貧しさから車いすの購入ができない子ども達も多く、援助の必要性を感じた貴重な体験ができました。



<車いすの組み立て体験>



<特殊教育センターで交流>



<車いす贈呈>



<自宅訪問>

○ クラブ名 2760 地区 南尾張分区 東海ロータリークラブ

○ 会長名 森 合 久 春

○ 国際奉仕委員長名 間瀬保英

○ プロジェクト名 ウィークリースープキッチン

○ 実施先国名 フィリピン

○ 実施先都市名又は地域名 パサイミア (マニラ)

○ 実事業費合計金額 (円) 200,000円

○ プロジェクト概要 フィリピン 3810 地区パサイミア RCとともに、

より健康な子どもを育てるため、子どもたちに栄養のある食べ物を配った

○ クラブ名 2760 地区 南尾張分区 東海ロータリークラブ

○ 会長名 森 合 久 春

○ 国際奉仕委員長名 間瀬保英

○ プロジェクト名 奨学金事業

○ 実施先国名 フィリピン

○ 実施先都市名又は地域名 カルカンノース (マニラ)

○ 実事業費合計金額 (円) 200,000円

○ プロジェクト概要 フィリピン 3800 地区カルカンノース RC の

協力を得て、高校生及び大学生へ奨学金の支給を行った

○クラブ名 2760 地区 南尾張分区 東海ロータリークラブ

○会長名 森 合 久 春

○国際奉仕委員長名 間瀬保英

○プロジェクト名 洪水被害復興支援

○実施先国名 タイ

○実施先都市名又は地域名 ウタラジット (ナンパイビレッジ)

○実事業費合計金額 (円) 600,000円

○プロジェクト概要 タイ 3360 地区3クラブ (ウタラジットRC
シラアサナRC、ピチャイRC) と合同で、洪水被害にあつたナンパイ
ビレッジにミーティング施設及び公衆トイレ (2室) を設置した



ウィークリースープキッチン（フィリピン）



カルカンノース地区の奨学生とともに（フィリピン）



ナンパイビレッジの公衆トイレ（タイ）



タイ3RCとの合同例会

○ クラブ名 2760 地区 南尾張分区 半田南ロータリークラブ
○ 会長名 竹内 俊郎
○ 国際奉仕委員長名 鈴木 宏司
○ プロジェクト名 タイの田舎の子供達にきれいな水を
○ 実施先国名 タイ
○ 実施先都市名又は地域名 Nakhon Sawan
○ 実事業費合計金額（円） 150,000 円

プロジェクト概要

タイの田舎に住む貧しい子供達に浄化された清潔な水を飲めるように浄水器の設置事業



浄水器



子供達



会長挨拶



贈呈式

○ クラブ名 2760 地区 南尾張分区 知多ロータリークラブ
○ 会長名 山口 清文
○ 国際奉仕委員長名 早川 佳教
○ プロジェクト名 例会に一杯のコーヒーを
○ 実施先国名 タイ国
○ 実施先都市名又は地域名 チェンライ県ウインパパオ
○ 実事業費合計金額（円） 30,000 円
○ プロジェクト概要 ルンアルン（暁）プロジェクト

タイ北部山地民の人々が丹精込めて栽培したアラビカコーヒーです。

手摘みで収穫、ていねいに天日に干したコーヒー豆を暁の家で焙煎して200gの袋詰めをして販売しています。販売収益は山地民の人々への教育支援、農業環境向上のために使われています。（以前は現金収入になるケシ等の栽培をしていた土地）

知多RC会員の平松 典保君は20年以上前から毎月2月に訪問して支援を続けています。今後持続可能な支援の方法として、山地民の新たな収入源の確保とその子弟の教育環境改善が目的の1つになっています。

コーヒー豆の価格は世界の投資家によって左右されます。小さな生産者では利益確保は難しく軌道に乗るまで支えていかないと破たんしてしまいます。

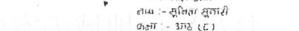
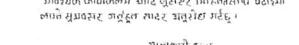
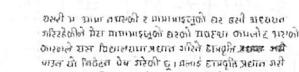
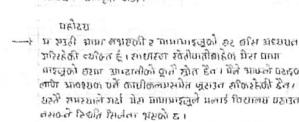
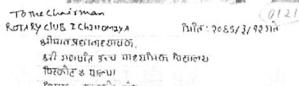
我がクラブの例会での使用量は1回200gですが、このコーヒーを飲むことによって心が豊かになります。

知多RCは2013年3月4日の例会より始めました。

現在は生産量が少なく品切れの状態です。2～3回の収穫期を乗り切れば続けていける事業であると思います。



- クラブ名 2760 地区 西尾張分区 一宮ロータリークラブ
○ 会長名 平谷良樹
○ 国際奉仕委員長名 森 保彦
○ プロジェクト名 未就学児童就学支援と学校建設募金
○ 実施先国名 ネパール
○ 実施先都市名又は地域名 山間部の僻地を中心とした複数地域
○ 実事業費合計金額（円） 100,000 円
○ プロジェクト概要 新校舎（8棟）の建設支援女性と10名の生徒への学費支援



- クラブ名 2760 地区 西尾張分区 津島ロータリークラブ
- 会長名 篠田 廣
- 国際奉仕委員長名 大河内勝彦
- プロジェクト名 周年記念事業の交流
- 実施先国名 日本・台湾
- 実施先都市名又は地域名 津島市、名古屋市、台北市
- 実事業費合計金額（円） 630,000 円
- プロジェクト概要 津島 R C 創立 60 周年記念式典に向けて、9 月に姉妹提携先の台北滬尾（タイペイフウェイ） R C を訪問し、11 月には当クラブ式典に台北滬尾 R C のメンバー及び夫人等 18 名にお越しいただきました。その時、津島市の歴史ある名所をご案内したり、お茶席を設けたりしました。
- また、4 月には台北滬尾 R C 創立 7 周年が開催され、津島 R C のメンバー 8 名で訪問しました。
- 式典だけでなく、お互いの地域の案内もでき、本年さらに深い絆で結ばれました。



9 月台北滬尾 R C 訪問



11 月津島 R C 60 周年
台北滬尾 R C 津島市内案内



4 月台北滬尾 R C 7 周年訪問

- クラブ名 2760 地区 西尾張分区 あまロータリークラブ
○ 会長名 真木伸一
○ 国際奉仕委員長名 田邊正紀
○ プロジェクト名 モンゴルウランバートル小学校水道設備改修プロジェクト
○ 実施先国名 モンゴル
○ 実施先都市名又は地域名 ウランバートル
○ 実事業費合計金額（円） 1,288,515 円
○ プロジェクト概要 モンゴルウランバートル所在のフレーRCと共に、現地のツェツエーグン第59統合学校のそのボイラーやトイレ、洗面設備等の改修、これに合わせて黒板や勉強机の刷新を行った。

当クラブでは、新地区補助金を得て、モンゴルウランバートル所在のフレーRCと共に、現地のツェツエーグン第59統合学校の水道設備改修プロジェクトを行いました。モンゴルでは、冬場は気温がマイナス40℃にもなることからボイラーによる集中暖房が欠かせませんが、そのボイラーやトイレ、洗面設備等の改修、これに合わせて黒板や勉強机の刷新を行いました。

2012年9月13日には、完成記念式典が行われ、当クラブから夫人を含めて13名が式典に参加しました。式典では、生徒が日本語で司会を行い、歌や民族舞踊を披露してくれ、当クラブからは寄付金で購入した文房具を寄贈しました。また、当クラブも紙芝居を通じて、手洗いの大切さや環境保全の大切さを子供たちに伝えました。校長先生が、涙ながらに感謝の言葉を述べられたのがとても印象的でした。

今回のプロジェクトをモンゴル側で中心的に担当してくれたのは、元米山奨学生でウランバートルにおいて日本式の小中高一貫教育の新モンゴル高校を経営するRCメンバーでした。学校での式典終了後、フレーRCの例会に出席し、プロジェクト資金の贈呈式を行いました。同クラブは、25名中19名が女性という頼もしいクラブであり、日本語を話せる方も多く、今後も友好、協力関係を深めていくことを約束しました。夕方には、同クラブの主催による歓迎晩餐会が行われ、多くの会員がウォッカを堪能しきっていました。

フレーRC の例会風景





プロジェクトで寄贈した机



記念式典テープカット



学校の子どもたちと

- クラブ名 2760 地区 西尾張分区 一宮中央ロータリークラブ
- 会長名 坂田義一 (さかたよしかず)
- 国際奉仕委員長名 永田 正 (ながたただし)
- プロジェクト名 カンボジア奉仕活動
- 活動日時 2012 年 11 月 18 日～21 日
- 実施先国名 カンボジア
- 実施先都市名又は地域名 シエムリアップ地区
- 実事業費合計金額 (円) 371,693 円
- プロジェクト概要 小学校・教員養成学校へ文具等の寄付
新設中学への建設資金の寄付



○ クラブ名 2760 地区 東尾張分区 犬山ロータリークラブ

○ 会長名 井川 光雄

○ 国際奉仕委員長名 稲垣 圭次

○ プロジェクト名 犬山文庫寄贈

○ 実施先国名 台湾

○ 実施先都市名又は地域名 草屯鎮

○ 実事業費合計金額 (円) 100, 000円

○ プロジェクト概要

教育の援助と両国相互理解の発展に寄与する事業として

姉妹提携クラブ草屯扶輪社と共に「犬山文庫」を

南投縣立旭光高中學に寄贈。



<犬山文庫を寄贈した南投縣立旭光高中學よりいただいた感謝状>

○ クラブ名 2760 地区 東尾張分区 春日井ロータリークラブ

○ 会長名 名畠 豊

○ 国際奉仕委員長名 長谷川 英輝

○ プロジェクト名 あしながおじさんプログラム

○ 実施先国名 フィリピン

○ 実施先都市名又は地域名 セブ市

○ 実事業費合計金額（円） 2012-13年 16万円、2013-14年 16万円

○ プロジェクト概要

このプログラムはフィリピンの中学生2年生に奨学金を支給するプログラムである。期間は2年間を計画している。2年間の奨学金の合計は、中学生一人につき4万円である。ロータリーメンバーが負担する金額は1年につき2万円になる。ロータリーのメンバー、一人に中学生一人の支給方式である。この方式は、確実に、ロータリーメンバーが奨学生に奨学金を渡すものである。

1、春日井ロータリーあしながおじさんの特徴

①ロータリーメンバーひとりにつき、奨学生ひとりと対応する。

②期間を2年間とする。

③奨学生は春日井ロータリーのあしながおじさんに3ヶ月に1回、手紙と写真を送る。送られない場合は、奨学金の支給を中断する。ロータリーメンバーが誰かわからなようにする。

1年半から2年の間に、ロータリーメンバーと奨学生が面談することができる。

2、面接

- ・学校の名称 Arcelo Memorial National High School
- ・中学校の住所 San Vicente, Lioan, Cebu
- ・校長先生の名前 FLORIZA Q. PITOGO

(フィリピンの小学校6年間、中学校4年間。日本の高校にあたるものは無い。高校を卒業してから専門大学、総合大学に入学できる。学年の始まりは、6月である。



下左側中学校の校長先生。下右の写真は18名の応募者である。成績表を確認したが成績の良い生徒であった。校長先生に事前に、貧しくて、学力優秀な生徒の推薦をフィリピン訪問前に依頼した。



左側の写真是面接風景。右側の写真是合格した中学生と。

18人の中から8名を選んだ。合格した生徒は、そのうれしさを、飛び上がるほどの態度で表現していた。合格者の2名は泣いていた。お父さんの職業を聞いたが、8名の内、1名は無職だった。ある中学生は、お父さんの仕事はドライバーと答えた。校長先生は、面接後、そっと教えてくれた。彼女のお父さんは日雇い運転手のことである。

フィリピンのセブ島の労働者の1ヶ月の給料は16000円から18000円くらいである（マニラは首都であるので、その給料はセブ島より40%くらい高いとのこと。）

年間2万円の奨学生は労働者の1ヶ月分の給料以上になる。奨学生にとっては、大きな金額であり、自分だけでなく、自分の兄弟も学校に通えるようになるのではないか。

- クラブ名 2760 地区 東尾張分区 春日井ロータリークラブ
- 会長名 名畠 豊
- 国際奉仕委員長名 長谷川 英輝
- プロジェクト名 フィリピン、セブ島の小学校に水洗トイレ寄贈
- 実施先国名 フィリピン
- 実施先都市名又は地域名 セブ市
- 実事業費合計金額（円） 2012-13年 300万円、2013-14年 50万円
- プロジェクト概要

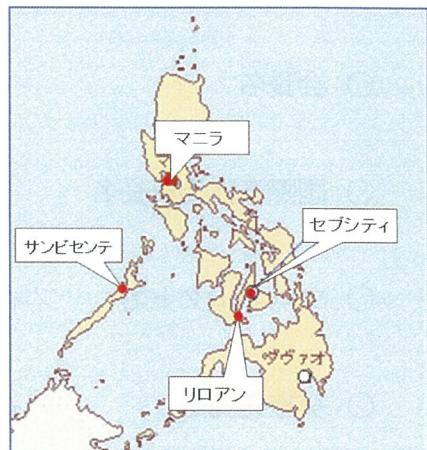
フィリピンのセブ島の小学校に水洗トイレを寄贈します。男女合計で16箇所の計画です。トイレの建屋、水道浄化槽、配管も工事の中に含まれます。あしかけ2年かけの計画となります。

詳細説明

セブ島

セブ島(Cebu Island)は、フィリピン中部のヴィサヤ諸島にある島で、南北に 225km に渡って伸びる細長くて大きな島である。面積は 4422 平方 km。

(セブ島は日本ではリゾート地として知られています。海岸、さんご礁、熱帯魚などとても美しい観光資源をもっています。成田からは直行便が就航していますが、セントレアからの直行便はありません。マニラで国内線に乗り換え、セブに行くことができます。リゾートエリアは、住民と隔離されて、住民の生活状況から判断すると、リゾート地は別天地の感があります。)



水洗トイレ設置予定の小学校の現状

- ① 名 称: SIMEON AYUDA ELEMENTARY SCHOOL(セブ市立の小学校)
- ② 校長先生 : PRESCILAR. CACANOOG



中央が校長先生



小学校

トイレの現状:

トイレは小学校に16個ありました。教室、1部屋にひとつのトイレ標準的に準備してあります。

写真 1



写真 2



写真1はトイレです。便器は落とし込み方式です。床の下には写真3のような穴が掘られています。この穴は排泄物の貯蔵タンクになります。排泄物は、地面に浸透する方式です。固形物が貯まり、地面に浸透しなくなると、別の穴を掘り、トイレは別の場所に移動します。穴は土で埋められます。写真 2 の左側にはペットボトルがトイレの前に置いてあります。このペットボトルの使用目的は まず、自分の排泄物を流すためです。次に、自分のお尻の清浄に使われます。トイレットペーパーはトイレの中にはありません。紙の使用は穴の使用期間を短くすることになります。写真 2にはありませんが、水のホースがあるトイレもあります。そのホースでトイレの掃除とお尻を洗浄するために使用できます。オーバーフローをした汚水は付近の川に流れます。ペットボトルに入れる水はトイレの近くに井戸があり、手動式ポンプで汲み上げています。

(写真 4)水道はこの小学校にはありません。先ほどのホースの水は、学校のどこかに井戸の水を貯めるタンクがあり、そこから水の供給をしているようです。

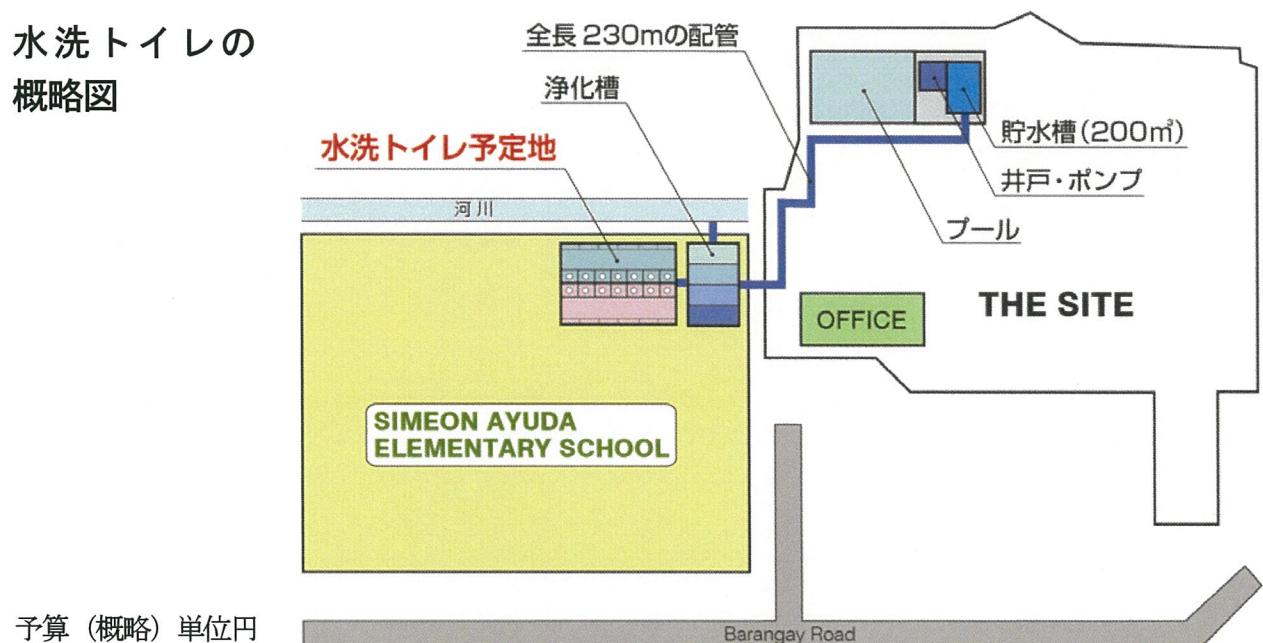


写真3



写真4

水洗トイレの概略図



名称	仕様		個数	単価	金額
1、浄化槽	R C造 (7. 0 * 2. 5 * 1. 8)		3 個	800000	2400000
2、排水パイプ埋設工事	1 m埋設		200 m	3000	600000
3、水洗トイレ			20	10000	200000
4、水洗トイレ取り付け工事			20	10000	200000
5、雑工事			一式	100000	100000
6、その他の予備費					500000
			合計		4000000



水洗トイレの完成を楽しみにしている学童



3時のおやつです。

クラブ名：2760 地区東尾張分区尾張旭ロータリークラブ
会長名：井田 武憲

尾張旭ロータリークラブ国際奉委員会の活動概要

自指すところは、ロータリーの綱領の第4項に表現されている「奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること」であります。

現実の課題としては、当クラブの実情を考慮し、実情に応じた国際奉仕活動を展開して行きたいと思っております。

- ① 個人レベルでの国際奉仕活動の推進
- ② クラブレベルでの国際奉仕活動の推進。

具体的には、国際奉仕の基本指針が手続要覧の第9章で述べられており、国際奉仕は、概念上、次のような四つの分野に分類されております。

- 1) 世界社会奉仕プログラム (WCS)
 - 2) 国際的教育と文化交流活動
 - 3) 特別な国際デーや国際週間・月間と催し
 - 4) 国際的な会合
- 1) について、当クラブとして RI260 地区国際委員会主導のWCSプロジェクトに昨年に引き続き、資金預託のかたちでの参画を予定し、検討してみましたが、プロジェクトの推進が難航しているように推察されたので、今年度は参画を断念しました。
- 2) について、名古屋経営短期大学に留学中の学生を当クラブの例会に招いて、夫々の祖国の現況報告を中心に質疑応答などを企画実行いたしました。国際理解と親善の推進の一助になればと思っております。
- わがクラブの国際奉仕委員会としましては、会員の皆様による個人レベルでの国際奉仕を推進していただきたいと思っております。
- 会員の皆様に、ロータリーの綱領第4項の意図するところを良く理解していただき、海外へ出掛けられたときに海外のクラブ例会に出席しバナーの交換など、国内での在日留学生はじめ在住外国人との交流などを通じて、国際間の理解と親善と平和の推進に少しでも寄与していただきますように、不断の努力をお願いいたしたいと思っております。

○ クラブ名 2760 地区 東尾張分区 名古屋空港ロータリークラブ

○ 会長名 串田正克

○ 国際奉仕委員長名 岩田哲也

○ プロジェクト名 フィリピンマカティ市立大学奨学金

○ 実施先国名 フィリピン

○ 実施先都市名又は地域名 マカティ

○ 実事業費合計金額 (円) 10万円 (次年度から15万円)

○ プロジェクト概要

海外姉妹クラブマカティウエストＲＣと協力して、1992年マカティウエスト・名古屋空港両クラブ奨学金基金財団を設立した。

マカティ市立大学の奨学生支援のため、毎年10万円寄贈している。

毎年7-8名程の学生が恩恵をうけており、マカティを訪問した際は、交流をしています。

○ クラブ名 2760 地区西名古屋分区名古屋ロータリークラブ

○ 会長名 大島 寅男

○ 国際奉仕委員長名 藤原 一朗

○ プロジェクト名 名古屋RC・ロサンゼルスRC姉妹提携50周年記念事業

○ 実施先国名 日本、アメリカ合衆国

○ 実施先都市名又は地域名 名古屋、ロサンゼルス

○ 実事業費合計金額（円） 170万円

○ プロジェクト概要

■ 1962年に名古屋RCとロサンゼルスRCが姉妹クラブに。2012年がその50周年にあたることから記念事業を催行。

■ 記念事業内容

① 名古屋RC大島会長夫妻と水野幹事夫妻がロサンゼルスRCを訪問(8月)

- 歓迎記念例会
- リトルトーキョーでの二世週パレードに参加

② 例会でロサンゼルスデーとして在名古屋米国領事による卓話(9月)

③ ロサンゼルスRCジェイ会長が名古屋RCに来訪(10月)

- 歓迎記念例会
- 名古屋まつりパレードに参加 → RCフロート（観覧車）出場
- Welcome Party & Farewell Party
- トヨタ自動車工場・リニア鉄道館見学
- 德川園観賞

【リトルトーキョーでの二世週パレード】



【名古屋まつりパレード】

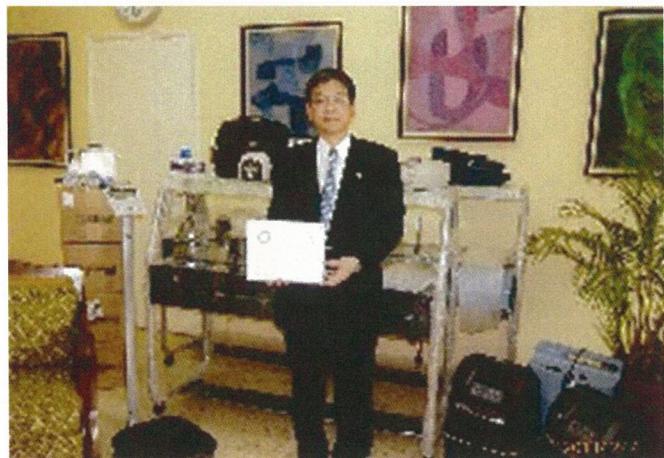


【名古屋における記念例会】



以上

- クラブ名 2760 地区 2760 分区 名古屋南 ロータリークラブ
- 会長名 大庭 洋三
- 国際奉仕委員長名 渡辺 哲人
- プロジェクト名 サンハウロ老人医療介護施設「A MAO BRAN
に医療、器具寄付支援事業
- 実施先国名 ブラジル
- 実施先都市名又は地域名 サンハウロ
- 実事業費合計金額（円） 1332,568 円
- プロジェクト概要 サンハウロ市内の老人医療介護施設「
A MAO BRANC 上から社会貢献出来るよう不足している
医療器具を継続してあるサンハウロ市ローラークラブ
の手で寄付を行なう事業です。



プロジェクト名「サンパウロ老人医療介護施設”A MAO BRANCA”に
医療器具寄付支援事業

この事業は3年にわたり企画されました。

当ロータリークラブの姉妹ロータリークラブであるサンパウロ南ロータリークラブ（以下 SPS・RC と称す）からの要請—ブラジルサンパウロ市内にある慈善団体老人医療介護ホーム “A MAO BRANCA”に絶対的に足りない医療器具を寄付して欲しい一があり、SPS・RC に所属する医師とも相談の上、検討を重ね寄付を決めました。

しかし、その年東日本大震災が起り、グローバル補助金も使えなくなる事から1年延期して規模を縮小し、又新地区補助金を利用して総額1,300,000円相当の医療器具を寄付することになりました。

2013年2月14日に “A MAO BRANCA”で医療器具を寄付する贈呈式を行い、式には大岡会長始めとする名古屋南 RC 会員9名と家族5名、SPS・RC 会員21名、4420地区 Marcos Luis ガバナー、サンパウロ領事 鈴木暁様他多数の方が参加されました。

当日の模様は地元日系新聞「サンパウロ新聞」「ニッケイ新聞」の2紙にも大きく取り上げられました。

サンパウロ地区にはこれで2回目の寄付行為ですが、SPS・RCとの厚い友情にささえられ無事事業を完遂する事が出来ました。

地区補助金委員会の皆様にもいろいろアドバイスをいただいたのも成功の原因かと思います。

この場を借りてお礼申し上げます。

写真資料

- ① 大岡会長と寄贈した医療器具
- ② サンパウロ鈴木暁領事
- ③ 大岡会長、「A MAO BRNCA」理事長、4420地区ガバナー、SPC・RC 会長



- クラブ名 2760 地区 西名古屋分区名古屋東南ロータリークラブ
- 会長名 橋爪 務
- 国際奉仕委員長名 小玉 秀男
- プロジェクト名 ルーザートレーニングセンター・「子供の森」計画支援 等
- 実施先国名 ネパール、フィジー
- 実施先都市名又は地域名 カトマンズ、ビチレブ島
- 実事業費合計金額（円） 535,000円
- プロジェクト概要
1. 双子クラブであるネパールのジャワラケルマンジュシュリRCが推進しているネパールの女性のための職業訓練センター「ルーザートレーニングセンタ」の活動資金を支援した。
 2. フィジーの子供の森計画に参加しました地元小学生の啓発教育に協力した。
 3. 名古屋市内で居住している海外からの留学生との懇親活動を実施した。

- クラブ名 2760 地区 西名古屋分区 名古屋大須ロータリークラブ
- 会長名 鬼頭茂成
- 国際奉仕委員長名 吉田憲一
- プロジェクト名 ハワイ日系高齢者慰問プロジェクト
- 実施先国名 米国（ハワイ）
- 実施先都市名又は地域名 ホノルル（オアフ島） ヒロ（ハワイ島）
- 実事業費合計金額（円） 670,800 円
- プロジェクト概要 ハワイ日系人の老人介護施設への慰問

名古屋大須ロータリークラブでは今年 1 月世界平和フォーラムが開催されたハワイにて 2012 年 11 月 21 日より 11 月 23 日まで国際奉仕活動を行いました。ハワイ日系人 2 世の高齢者養護施設への慰問の他、ワイキキロータリークラブの訪問交流、日系人向けラジオ局出演にてロータリー広報活動、さらにハワイ島にある日系人会館ジャパニーズセンター、地元の老人介護施設にも慰問に訪問しました。

明治に入植した日系人は血のにじむような努力の末、日系人の高い地位を築きました。その後米国ハワイ州においては強力な政治指導力を発揮してきました。しかし 3 世、4 世と世代が進むうちに米国社会に同化して日本人の国民性、文化も失われてきています。今回の訪問は日系 2 世の高齢者が幼少のころ聞いた日本の唱歌に涙を流すという逸話からでした。慰問では参加したメンバー全員での合唱や会話を楽しんでいただきました。いつまでも手を叩きながら涙ぐんだり満面の笑顔を見せたりする姿に移民としてこの地に根を下ろすまでのご苦労と郷愁の思いを感じました。



ワイキキロータリー訪問



オアフ島日系人老人ケア施設慰問



ハワイ島老人介護施設慰問



ハワイ島日系人会館（ジャパニーズセンター）訪問

○ クラブ名 2760 地区 西名古屋分区 名古屋丸の内ロータリークラブ

○ 会長名 藤田 守彦

○ 国際奉仕委員長名 藤野 正敏

○ プロジェクト名 ①チャバアンポウ村への医療及び教育支援（新地区補助金）
②チャバアンポウ村中学校への職員室寄付（会員有志寄付）
③ペレリウ島小学校への設備援助

○ 実施先国名 ①②カンボジア王国 ③パラオ共和国

○ 実施先都市名又は地域名 ①②コンポット州コンポット郡チュバアンポウ村

③ペレリウ島 ペレリウ小学校

○ 実事業費合計金額（円） ①651,928 円 ②1,058,765 円 ③100,000 円
(内、①新地区補助金 157,440 円 ②会員有志寄付 1,046,000 円)

○ プロジェクト概要

① チャバアンポウ村への医療及び教育支援 … 2004 年からのクラブ継続

事業であり、「村の子供たちに教育の場を」という意図で始められた支援が

やがて村の発展につながるよう、村民の健康管理への支援にもつながり、

診療所の設立以後は薬品の寄付、子供たちには文具、図書の寄付を現地を

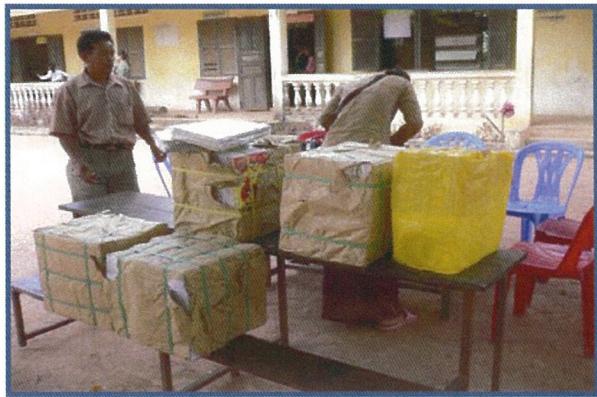
訪問して実施している。

② 生徒数が増えて教室が不足のため職員室を別棟に建設した。

③ペレリウ島小学校への設備援助

将来は日本の小学生とパラオの小学生の交流を目指し、現地の小学校を視察。

小学校側の要望でソフトボール道具一式の寄付を寄贈した。



児童・生徒への文具配布



図書寄贈



診療所へ薬の寄付



職員室の建設

- クラブ名 2760 地区 名古屋東分区 名古屋東ロータリークラブ
○会長名 水野 茂生
○国際奉仕委員長名 新実 宣英
○プロジェクト名 R I 国際大会参加
○実施先国名 ポルトガル
○実施先都市名又は地域名 リスボン
○実事業費合計金額(円)
○プロジェクト概要

地区オントーリスボン委員会担当会員が主となり国際大会への
積極的参加を要請した結果、当クラブより会員、家族、事務局
41名が参加し、ガバナーナイトを成功裡に開催できました。

- クラブ名 2760 地区 名古屋東分区 名古屋東ロータリークラブ
○会長名 水野 茂生
○国際奉仕委員長名 新実 宣英
○プロジェクト名 インド「明日の会」援助
○実施先国名 インド
○実施先都市名又は地域名 SHIRUR郡
○実事業費合計金額(円) 600,000円
○プロジェクト概要

「IT教育を通じてインドの女性地位向上を図る」に賛同し、
設備向上資金を提供する(H25年2月26日送金)

[クラブ国際奉仕委員会より 100,000円
 クラブ有志より 500,000円]

○ クラブ名 2760 地区 東名古屋 分区 名古屋和合 ロータリークラブ

○ 会長名 坪井 和義

○ 国際奉仕委員長名 野崎 敏夫

○ プロジェクト名

○ 実施先国名 カンボジア

○ 実施先都市名又は地域名

○ 実事業費合計金額 (円) 1,000,000,000 円

○ プロジェクト概要

カンボジアでの小学校建設と教育面でのリーダーとなる人材の育成をクラブの活動として発展させることを目的とし、学生を日本に誘致、ホームステイさせ、委員長とともに卓話を実施、カンボジアを現況等を報告し、会員に理解を深めた。

WCS活動（地区へ一任）

名古屋姉妹友好都市へ協力

- クラブ名 2760 地区 東名古屋分区 名古屋名東ロータリークラブ
 会長名 米山 郁生
 国際奉仕委員長名 鈴木 由二
 プロジェクト名 ①姉妹クラブとの親睦 ②水プロジェクト
 実施先国名 ① 日本 ②インドネシア
 実施先都市名又は地域名 ①名古屋 ②バリ島
 実事業費合計金額（円） ①26万 ②グローバル補助金
 プロジェクト概要
 ① H24/の11月20日（火曜日）に姉妹クラブの
 韓国ソウル普信閣RCのメンバー12名が、来日されて当RCとの夜間合同
 例会を行なった。
 ②インドネシアのバリ・タマンRCが実施クラブで当クラブがスポンサーク
 ラブの“水プロジェクト”をR I 財団のグローバル補助金 \$ 56000 を申請して、
 承認を得た。活動は2013-2014 になる予定です。



- クラブ名 2760 地区 東名古屋 分区 名古屋千種 ロータリークラブ
- 会長名 谷口 優
- 国際奉仕委員長名 鈴木 聖三
- プロジェクト名 キャンヘルプタイランド
- 実施先国名 タイ
- 実施先都市名又は地域名 バンコク プリヤハ カラシン スリン 化
- 実事業費合計金額（円） 389,000 円
- プロジェクト概要
- タ1の中でも特に貧しい人々の子供達に
学校給食や奨学金の援助を続け より良い教育環境
を提供するための寄付 プロジェクト。
- 奨学金プログラム・山岳部少数民族特別基金
- 建設プログラム・ランチプログラム・図書支援プログラム
- 運営経費の寄付
- 有关による寄付金とクラブ寄付により実施

キャンヘルプタイランド活動報告

運営委員 坂 茂樹

タイの子どもたちの教育支援をしている NGO キャンヘルプタイランドです。千種ロータリークラブ様には大変お世話になっております。



2012 年度の奨学金プログラムの活動では、日本のドナーの皆様からお預かりした尊い支援金を奨学金として約 200 名のタイの子どもたちへ直接届ける事が出来ました。

また、建設プログラムでは、メー・ホン・ソン県の小学校へ 300 万円規模の大型建設支援を準備しております、2012 年度から計画を進め、2013 年度中の完成を目指して事業を進めております。

タイの子どもたちの教育環境は平均すれば毎年少しづつ改善されていますが、日本と同様に都市部と農村部山岳部との格差はどんどん広がっていきます。教育のセーフティーネットとしての奨学金支援をこれからも続けていきますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

- クラブ名 2760 地区 東名古屋分区 名古屋東山ロータリークラブ
- 会長名 戸田 勝儀
- 国際奉仕委員長名 鈴木 宏治
- プロジェクト名 ベトナムの児童養護施設への援助活動
- 実施先国名 ベトナム
- 実施先都市名又は地域名 ホーチミン
- 実事業費合計金額 (円) 258,194 円
- プロジェクト概要

ベトナム・ホーチミンの児童養護施設に生活用品等の物資を援助する。

実施日：2013年2月22日～2月24日（3日間）

支援物資：生活用品 および食品

ベトナム経済の急激な変化において、生活用品や食品の支援により安定的な生活が維持することを目的とし、恵まれない児童達を国際人として活躍できる社会に育成する。



- クラブ名 2760 地区 東三河分区 豊橋ロータリークラブ
- 会長名 石黒 功
- 国際奉仕委員長名 兼子 直久
- プロジェクト名 山岳民族定住化のための教育支援
- 実施先国名 タイ国
- 実施先都市名又は地域名 バンコク (ベンジャシリ RC)
チェンライ県ラックペンディング村
- 実事業費合計金額 (円) 450,000円
- プロジェクト概要 山岳民族定住化のための教育支援として、穀殻燻炭製造器を、チェンライ県ラックペンディング村および周辺の9つの学校に各1台ずつ合計9台贈呈した。また学用品等を支給した。
- 実施日：2012年11月8日～2012年11月12日（5日間）
場 所：タイ国チェンライ県ラックペンディング村
恩恵を受けた人々：チェンライ県の指定校（9校）の生徒
参加者：石黒功会長、佐藤脩次会員、森田通夫会員、高山景一会員、
佐々木利政会員、松井孝悦会員、池田至会員、岩瀬清会員、
岡田直樹副委員長、兼子直久委員長（計10名）
- その他
ベンジャシリ RC の来訪（2013年5月23日、24日）
ベンジャシリ RC の8名の方々が、豊橋RCを訪問して下さいました。

1. 経緯

豊橋RCは、WCS活動の一環として、佐藤脩次会長、森田通夫国際奉仕委員長の1998～1999年度から、独自に3350地区（タイ国）ベンジャシリRCと協力して、チェンライ県ラックペンディング村の山岳民族の定住化支援と、その子供たちへの教育支援に、会員が毎年現地を訪問して寄付を続けています。

2008年にはWCS活動開始10周年を記念して「ラックペンディング村あしながおじさん奨学金」を募り、今まで続けてきた豊橋RC支援金の他に、会員の皆様の善意でまとまった額の奨学金を子供たちの教育資金にと考え、上記とは別に寄付しております。

前々年度（2010～2011年）は、豊橋RC60周年記念事業として、ベンジャシリRCと3年間の姉妹クラブ締結の調印を致しました。

2. 本年度の報告

(1) ベンジャシリRCとの交流（11月8日、9日、11日）

バンコクでは、11月9日に、ベンジャシリRCの例会に出席しました。

本年度は、前々年度に3年間の約束で締結した豊橋RCとベンジャシリRCとの姉妹クラブ締結の最終年に当たりました。そこで、次年度以降の両クラブの関係を互いに協議した結果、更に3年間の姉妹クラブ締結の合意に至ったので、例会にて、その調印式を行いました。



（更に3年間の姉妹クラブ締結の調印式／バンコク）

その他、ベンジャシリRCとは、我々が日本からバンコクへ到着した夜（11月8日）と、バンコクから日本へ帰国する夜（11月11日）に、合計2回の晩餐会を開催し、互いの交流を深めました。



（ベンジャシリRCとの晩餐会／バンコク）

(2) ラックペンディング村（11月10日）

① 粕殻燻炭製造器

11月10日には、ラックペンディング村を訪問しました。そこでは、山岳民族定住化支援とその子供たちへの教育支援のために、新地区補助金を活用して、粕殻燻炭製造器を当該地区の9つの小学校に各1台ずつ合計9台贈呈しました。贈呈した粕殻燻炭製造器は現場設置型ですので、先に手配し設置工事が完了したものについて、その稼働状況を確認しました。

参考までに粕殻燻炭製造器は、粕殻から燻炭を製造するものです。(1) 製造された燻炭は、土に混ぜ込むと、通気性及び排水性がよくなるので土壤改良に効果があります（土壤改良）。(2) また環境に有効な微生物の繁殖に有効なため、水の濾過材として利用することにより、水質浄化に効果があります（水の浄化）。(3) 網の袋に入れてトイレなどに置いておくと市販の脱臭剤と同じように脱臭効果があります（脱臭）。(4) 更に飼料に2%程混入して与えることにより養豚の場合、肉質の向上、排泄物の臭気の低下家畜の健康増進に効果があります。養鶏の場合、卵殻の硬い健康卵が生まれます（養豚・養鶏）。

この粕殻燻炭製造器で製造した燻炭を用いて、土壤改良や水質浄化などを図ることについて、生徒一人一人が実際の学習機会を得ることとなり、生徒を通じて村民や村民子弟への教育がなされることと期待しています。



(贈呈した粕殻燻炭製造器の稼働状況の観察／
チェンライ県ラックペンディング村)

② ラックペンディング村あしながおじさん奨学金

上記贈呈の際に、豊橋R Cの会員の皆様から募った「ラックペンディング村あしながおじさん奨学金」と学用品等を、ラックペンディング村の60名の子供たちへ直接手渡しました。奨学金は現地の子供1人が一年間学校に通うのに必要な金額としており、それを60人分贈呈しました。奨学金や学用品を受け取った子供たちの笑顔が印象的でした。



(贈呈式で挨拶する石黒会長／
チェンライ県ラックペンディング村)



(あしなが奨学金でもらった学用品に喜ぶ子供たち／
チェンライ県ラックペンディング村)

③バザー

贈呈式後には、我々への歓迎の意味を込めて小さなバザーを開催してくれました。バザーでは子供たちの手作り品々である帽子や表札、人形などが販売されました。糞殻燻炭製造器で製造した燻炭や木酢液も販売していました。我々がこれらを購入したときの子供たちの表情は何とも言い難く良いものでした。単なる寄付などではなく、自律を促す援助がいかに大切であるのかを実感しました。これも豊橋R Cの歴代会員の方々が過去14年間に少しづつ行ってきた活動の成果であったと思います。

(3) エレファンント・ホスピタル訪問（11月11日）

11月11日には、チェンマイ県のエレファンント・ホスピタルを訪問しました。前日にラックペンディング村のあるチェンライ県からバスで5時間かけて移動しての訪問でした。このエレファンント・ホスピタルは、世界で唯一の像の病院で、像使いにより痛めつけられた像や、地雷で片足を無くすなど大けがをした像、母像に育児放棄された子像などを保護しています。

2011～2012年のタイ・バンコク国際大会の際、ベンジャシリRCの方々との交流で、エレファンント・ホスピタルの理事長が姉妹クラブ締結しているベンジャシリRCの会長エレクトであったことから、本年度の石黒功会長（当時会長エレクト）が訪問を決意し実現したものです。

エレファンント・ホスピタルでは、理事長自ら施設の説明と案内をして下さり、施設を見学致しました。豊橋RCからは寄付を贈呈してまいりました。



（片足を傷め療養する像／チェンマイ県エレファント・ホスピタル）

3. その他（ベンジャシリRCの来訪（2013年5月23日、24日））

WCS活動と共にやっているベンジャシリRCの8名の方々が、豊橋RCを訪問して下さいました。ブンチャイ会長を始めとする5名のロータリアンと、3名の奥様の計8名です。

5月23日に、セントレアでご一行をお迎えし、その夜は、8名のベンジャシリRCの方々を、豊橋RCのロータリアンや奥様の約20名で歓迎するウエルカム晚餐会を行いました。いつもはバンコクでお会いする方々を、地元の豊橋でお迎えできることを、皆さん心から喜ばれていました。



（二川本陣をベンジャシリRCの方々が見学する様子／豊橋市）

翌5月24日は、例会前の午前中の時間を利用して、豊橋の名所をご案内しました。二川本陣を観光し、吉田城三の丸会館で抹茶と和菓子を楽しんで頂きました。また豊橋市役所を表敬訪問し、今までのWCS活動を副市長に紹介させて頂きました。

午前中の豊橋観光の後、豊橋RCの例会に出席して頂きました。例会では、バナー交換のほか、両クラブの15年間の交流の歴史について双方のクラブ会員からそれぞれの思いが語られました。特に、このWCS活動をスタートさせた佐藤脩司パスト会長は、豊橋の地でベンジャシリRCの方々とお会いできることを「無情の喜び」と表現されていました。



(ベンジャシリRCの方々を迎えた例会／豊橋市)

ベンジャシリRCの方々との交流では、米山奨学生のリンダさんがラオス出身であり、ラオス語はタイ語にほとんど近いとのことで、2日間通訳をして下さいました。御陰でとても良いコミュニケーションができました。ありがとうございます。

いつもはバンコクでお持てなしを受ける側の我々が、今回の来訪でベンジャシリRCの方々をお持てなしできることを、心から嬉しく思いました。ありがとうございます。

以上

- クラブ名 2760 地区 東三河 分区 豊川 ロータリークラブ
- 会長名 木下良夫
- 国際奉仕委員長名 久具信夫
- プロジェクト名 ①台湾姉妹クラブとの姉妹締結更新例会
- プロジェクト名 ②2011～2012年度実施ネパール識字率向上支援報告
- 実施先国名 ①台湾 ②ネパール
- 実事業費合計金額 (円) 910, 628 円
- プロジェクト概要 ①は姉妹締結をしている台湾岡山RCと締結更新調印を2013年3月25日(月)於: ホテルアソシア豊橋に例会の席上行った。
- 台湾からの訪問者19名をお迎えし、会員だけでなくご夫人も同席して、にぎやかに交流を深めることができた。
- ②2013年2月20日(水) 例会で直前年度に行ったネパール識字率向上支援についての報告会を行った。この活動は2012年3月に当クラブでお世話していた米山獎学生のカドカさんからの申し出により実現できたもので、会員から文具の寄付と募金を募り、カドカさんの出身地であるネパールへ帰省の折に持ち帰ってもらったことの報告会である。

① 台湾姉妹クラブとの姉妹締結更新例会

2011年3月に発生した東日本大震災では当クラブを通じて被災地に寄付をいただいたため、その感謝の気持ちと“頑張れ東北！”の思いを込めて例会の席上参加者で撮影した。



② 2011～2012年度実施ネパール識字率向上支援報告



前回、カドカさんは街を綺麗にしたいとの思いからゴミ箱をいきなり街中においたがネパールの市民に理解を得られなかった経験があった。そこで、まず学校の生徒にルールを理解してもらうことを目的に、豊川RC会員の募金で現地（ジリ）の高等学校にゴミ箱を設置。皆に広めるため学校に掃除をするクラブを設立。スカイプで確認した結果、観光客が立ち寄るほど綺麗な学校になっているとのことだった。校長先生から豊川RCに対し“認証”が与えられた。

○ クラブ名 2760 地区 東三河分区 豊川宝飯ロータリークラブ

○ 会長名 高桑 耐

○ 国際奉仕委員長名 大島 翠雄

○ プロジェクト名 ①パソコン寄贈②トイレ設置寄贈③台湾RCとの交流

○ 実施先国名 ①スリランカ②スリランカ③台湾

○ 実施先都市名又は地域名 ①バンダラガマ②バンダラガマ③台中市

○ 実事業費合計金額 (円) ①80,000 円、②234,000 円、③100,000 円

○ プロジェクト概要

① スリランカの識字向上のためにバンダラガマ小中学校にパソコンを 3 台寄贈した。(昨年の事業だったが今年度にずれこんだ事業)

② 同上の学校のトイレが老朽化しており、公立学校なので補修は本来なら行政の仕事だが、財政難で手つかずなので、子供たちの衛生的な環境悪化を懸念して建設寄贈した。

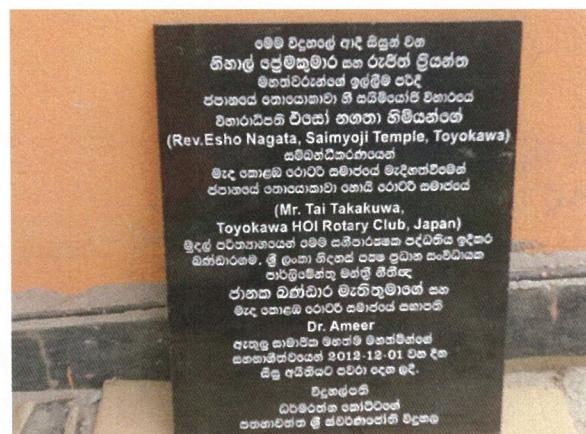
③ 東日本大震災への迅速な救援活動をされた台湾国との姉妹交流の機運

が盛り上がり、調査研究のため国際委員会及び有志で台湾国台中市の松竹RCを表敬訪問して、震災への援助の感謝を伝えるとともにクラブ同士の交流について忌憚ない意見交換をした。

①パソコン寄贈



②トイレ設置寄贈



③台湾RCとの交流



○ クラブ名 2760 地区 東三河分区 豊橋ゴールデンロータリークラブ

○ 会長名 梅田 英樹

○ 国際奉仕委員長名 杉田 和俊

○ プロジェクト名 留学生と教諭との交流会議

○ 実施先国名 日本

○ 実施先都市名又は地域名 豊橋市

○ 実事業費合計金額（円） 486,742円（内 新地区補助金 166,640円）

○ プロジェクト概要

2008 年に文科省、外務省、法務省、厚労省、経産省、国交省によって策定された「留学生 30 万人計画」では、当時 14 万人だった留学生を 2020 年までに 30 万人に増加させることを目標とするもので、日本を世界においてより開かれた国とし、アジアをはじめ世界の間でのヒト・モノ・カネ、情報の流れを拡大する「グローバル戦略」を展開する一環としてまとめられたのですが、海外からの留学生は約 13 万人に止まり、海外へ留学しようとする若者については約 6 万人程度と近年その数字は減少の一途を辿り、日本へ留学したい外国人学生、海外に行って勉強したいという日本の若者が減少している現況の中、本プロジェクトでは、外国人留学生及び県内ロータリー青少年交換留学生と市内小中学校・高校教諭との交流会を企画実施致しました。

日本とは異なった文化や環境の中で育ち、そして自身の成長や自国の発展など高い志を持って日本にやってきた留学生と、今後教育現場の最前線で更なる活躍が期待される若き教諭らが、教育や文化をはじめ日本の魅力、問題点、将来の夢など様々なテーマについて議論し意見交換することで、今後の教育現場におけるグローバルな人材の育成に役立てて頂くと同時に、留学生には、日本の良き文化や教育、人との絆や感謝の心などについての理解を深めてもらうことで、将来自国と日本との親善交流に繋がることを目的した国際交流事業です。

交流会では、参加者約 60 名を 4 グループに分け、討論テーマに関する事前アンケートとともに、ロータリアンがグループリーダーとして討議をすすめ、最後には一堂に会しグループごとに発表をして頂きました。

奉仕プロジェクト名：「留学生と教諭との交流会議」
 基本コンセプト：“国と国とのかけ橋の心を育てよう！”
 実施日：2013年3月16日（土）9:40～15:00
 会場：ロワジールホテル豊橋（豊橋市藤沢町141）
 討議テーマ：「教育」「文化」「風土・環境」
 「生活」「グローバル化」「将来の夢」
 参加者：
 豊橋技術科学大学留学生 18名
 ロータリー青少年交換留学生 9名
 小・中学校、高校教諭 29名 総勢 56名
 ロータリアン

スケジュール

9:00	受付	受講者（留学生・教諭）友愛の広場へ
:40	受講者・ロータリアン	グループごとに自己紹介（友愛の広場にて） (参加者・ロータリアンは、本会議場へ移動)
10:00	点鐘	ホストクラブ 会長 梅田英樹
	国歌斉唱 『君が代』	ソングリーダー 国際奉仕委員 嶋田健一
	開式の言葉	
	挨拶	ホストクラブ 会長 梅田英樹
	来賓挨拶	豊橋市長 佐原光一氏
	参加者紹介及び開催主旨の説明	ホストクラブ 国際奉仕委員長 杉田和俊
:15	基調講演	株式会社カルチャージ代表取締役 東條英利氏
	講師紹介	ホストクラブ 国際奉仕委員 白川雄一
11:00	お礼の言葉	ホストクラブ 国際奉仕委員 伊藤眞芳
11:10	討論会 第一部	参加者・ロータリアンは、各討論会場へ移動
12:10	昼食	昼食会場へ移動し、グループごとに食事
13:00	討論会 第二部	参加者・ロータリアンは、再び各討論会場へ移動
14:00	全体発表会	参加者・ロータリアンは、本会議場へ移動
:05		第1グループ 参加者代表
:15		第2グループ 参加者代表
:25		第3グループ 参加者代表
:35		第4グループ 参加者代表
:45	講評	ホストクラブ 国際奉仕委員 山口幹夫
	修了証授与	ホストクラブ 国際奉仕委員 白井正樹
	ロータリーソング	『手に手つないで』 ソングリーダー 国際奉仕委員 加藤ゆり子
15:00	点鐘	ホストクラブ 会長 梅田英樹
:05	記念撮影	参加者全員で集合写真
	解散	



- クラブ名 2760 地区 東三河分区 田原パシフィックロータリークラブ
- 会長名 鈴木 照幸
- 国際奉仕委員長名 夏目 晃哉
- プロジェクト名 「東日本大震災復興支援プロジェクト③」
- 実施先国名 日本
- 実施先都市名又は地域名 岩手県 大船渡市
- 実事業費合計金額（円） 結果的に「協力」のため予算使用せず 円
- プロジェクト概要

2011年3月11日の東日本大震災発生後より継続活動しています。

<今までの経緯>

プロジェクト①

2010-2011年4月22-24日 生活物資寄付・会員が運搬。(大船渡RC 経由)

プロジェクト②

2011-2012年5月19-20日 支援金寄付・会員訪問。(東海新報社)

<今年度>

プロジェクト③

2012-2013年10月13日 DDF活動にてAFS(高校生留学生)並びに
当クラブ担当米山奨学生と協力して復興支援プロジェクト開催。

風評被害対策イベント

「大船渡さんまフェス in 田原」直送さんまを炭火焼きし無償提供。

- クラブ名 2760 地区 三河中 分区 岡崎 ロータリークラブ
- 会長名 萩須 文一
- 国際奉仕委員長名 酒井 玲司
- プロジェクト名 愛知県立附属小学校 バリス校交換留学
- 実施先国名 アメリカ
- 実施先都市名又は地域名 インディアナ州 マンシーリー市
- 実事業費合計金額（円） 600,000 円
- プロジェクト概要
- ・児童（ひと）の交流
バリス校児童の交流訪問を通じて、子供たちの異文化理解の推進を図る。
- ・作文、作品、制作物など（もの）の交流
児童英語の時間だけでなく、他の学習や教科等の時間なども有効活用することで諸外国の人々の暮らしや文化への興味・関心の喚起を図る

- クラブ名 2760 地区 西三河中 分区 岡崎南 ロータリークラブ
- 会長名 藤田 正彦
- 国際奉仕委員長名 酒部 佳直
- プロジェクト名 ナザレ園訪問
- 実施先国名 韓国
- 実施先都市名又は地域名 慶州
- 実事業費合計金額 (円) 245,000 円
- プロジェクト概要 戦後 50 年以上を経過しましたが、依然として

多くの日本人の身寄りの無いご老人が韓国内に多数おいでになります。

慶州ナザレ園で暮らす方々はほんのひと握りだそうです。

慶州ナザレ園への入所をご希望なさっている方々が、まだまだ大勢います。

韓国の方々がそんなご老人の方々を援助している中、我々岡崎南ロータリ

ーのメンバーが出来る事は、お金の援助は勿論、毎年、定期的に訪問する事で、

日本から日本人が来て、入所している方々の笑顔を送ることです。

毎年行うことが、真の国際奉仕であると思います。



ソウル駅より慶州へ



ナザレ園の宋園長様へ寄付とお土産の釜飯



ナザレ園入居者の方とともに

- クラブ名 2760 地区 西三河中 分区 豊田西 ロータリークラブ
- 会長名 寺田 壽孝
- 国際奉仕委員長名 阪本 守
- プロジェクト名 台湾「栄光育幼院」への教育資金寄贈及び交流活動
- 実施先国名 台湾
- 実施先都市名又は地域名 台北市
- 実事業費合計金額（円） 100,000円（教育資金として）
- プロジェクト概要

財団法人「栄光育幼院」は、育児放棄や両親が重病や服役中・家庭内暴力などにより、両親とともに生活できない子供たちの自立を助けるために、共に助け合いながら共同で生活する場の提供を目的に、1965年に設立された。

現在、幼稚園から大学生までの男女29名が入所している。

豊田西ロータリーでは、2010年から毎年施設を訪問し、子供達との交流活動を行うと共に、教育資金の寄贈や文房具などの提供を実施している。

- クラブ名 2760 地区 西三河中 分区 豊田西 ロータリークラブ
- 会長名 寺田 善孝
- 国際奉仕委員長名 阪本 守
- プロジェクト名 国際交流協会への図書寄贈
- 実施先国名 _____
- 実施先都市名又は地域名 _____
- 実事業費合計金額(円) 100,000 円
- プロジェクト概要 _____
- 公益財団法人豊田市国際交流協会は、諸外国との相互理解と友好親善、地域の交流活動など幅広い事業を展開している。
- 現在、豊田市内には70か国14,000人の外国人が居住されている。こうした外国人の方がたが日本語学習や日本文化を習得する活動をサポートする目的で、必要な日本語教材・図書を寄贈する。

4. 第3日目の活動： 「栄光育幼院」訪問

(1)「栄光育幼院」の概要

①1965年設立の「財団法人私立栄光育幼院」

②入所者 男女合計29名



幼稚園児 2名

小学生 10名

中学生 7名

高校生 8名

大学生 2名

- ・両親とともに生活できない * 子供たちの自立を助けるため、
共に助け合いながら共同で生活をする場の提供を目的に設立
* 育児放棄、両親が重病や服役中、家庭内暴力など

(2) 栄光育幼院への訪問活動の歴史

今回が第4回目の訪問ということで、非常にうちとけた雰囲気で
子供たちとの交流ができました。

第1回 2010年3月4日～6日

梅村会長、川澄委員長以下6名

第2回 2010年11月2日～4日

加納会長、松本委員長以下10名

第3回 2012年2月7日～9日

中川会長、伊藤委員長以下10名

③ 子供たちとジェスチャーゲームとbingo大会を楽しむ



④ 大抽選会



○クラブ名 2760 地区 西三河中分区 岡崎城南ロータリークラブ

○ 会長名 近藤 憲康

○ 国際奉仕委員長名 近藤 正俊

○ プロジェクト名 ミャンマー教育支援プログラム

○ 実施先国名 ミャンマー連邦共和国

○ 実施先都市名又は地域名 ザガイン管区シュエボ

○ 実事業費合計金額 (円) 739, 2000 円

○ プロジェクト概要 1999年より実施している当クラブ独自の国際奉

動仕活で本年で15回目になる。本年は平成25年1月25日より30日ま

で会員9名をミャンマーへ派遣し、医学生15名に一人\$500から\$800

の計8,800ドルを直接手渡しで支給した。

併せて当クラブ会員23名の有志から集めた資金で同地区に診療所を建設し、

その開所式を行った。この診療所は、医科大を卒業した当クラブの奨学生であ

った医師達が医療の実践の場として勤務でき、ミャンマーには、まだまだ少な

いの地域医療に役立つ施設として建設したものである

第15回WCS活動事業報告

◎事業内容	奨学生の支給とKIBOHクリニック視察
◎寄付金の用途	クラブ奨学会KIBOH及びあおい奨学会から奨学生の支給
◎訪問目的	当クラブの奨学会より奨学生15名(新奨学生2名含む)に奨学金(総額\$8,800)を手渡しで支給
◎実施時期	2013年1月25日~30日
◎派遣会員	近藤正俊(国際奉仕委員長・団長) 小林通利(WCS委員長) 中根常彦(会長エレクト) 太田政信 田中暉登 市川聰明 京 幸一 鈴木 豊 永谷和之 佐久間麻耶(市川会員の長女)

当クラブ独自事業の国際奉仕活動として本年で第14回目の訪問となるミャンマー教育支援プログラムの奉仕活動を現地ミャンマーで参加会員10名が行った。本年は当クラブの奉仕活動の拠点であり、過去に図書館3館を建てて寄付したザガイン管区シュエボを訪れた。この地は、ヤンゴンから空路で北へ約700km時間半かかりマンダレーへ、そこから陸路で北西部へ160km行ったところにあるため日本からは丸一日間以上かかる。



マンダレー空港にて奨学生達と1年ぶりの再会

マンダレー空港では医師となった9名を含め25名の卒業生・現役学生の出迎えを受け、空港からバスで3時間、車に揺られシュエボに着く、この道路は、一車線のみの簡易舗装された悪路であったが、昨年少し改良され二車線の有料道路となっていた。そしてシュエボ第1高校にある築12年となった第1図書館KIBOHを始め、他の第2、第3図書館も視察した。今でも図書館として十分利用されている状況を確認できた。ただ長い雨期もある地域なので何れの図書館の外装の痛みは酷く一部塗装が剥げ落ち、外装のリフォームの必要性

を感じた。学校から予算もなく塗装修理をしたいと現地管理者側から要望も受けた。

また、今年は当クラブメンバーから寄付を募り、その費用で卒業した医学生のために共同



築12年経過の第1図書館KIBOH

診療所を建設した。その名は「KIBOHクリニック」。その建物建設工事が本年1月上旬に完了したこともあり、その工事完了も確認する目的もあった。

この視察時「KIBOHクリニック」に多数の高齢者で溢れていた。開業前なのにこんなに混雑していることが不思議であったので地元協力者にその理由を聞くと、地元の医師がこの建物を使い、無料で高齢者の健康診断をしているとの回答であった。新築の診療所内ではすでに我々の奨学卒業生である医師数名がボランティアで診察をしていた。我々が支援してきた医師達の姿をみて、頬が緩む。我々はとても心が温かくなった

KIBOHクリニックの玄関



そんな地元の人でごった返す建物前でクリニック開所式を目立ためよう執り行った。診療所



クリニック内無料診察中の若き医師達
械・器具がある病院も少ない。大都市に1~2あるのみ。

内には、診療のための器具、機材が少なく、まだ我々の支援が必要であることを痛感した。
ミャンマーにはまだ健康保険制度もなく医療技術も低く、高度な検査機械・器具がある病院も少ない。大都市に1~2あるのみ。
国民の所得が低いため治療費が払えない人たちが多いので高度な医療設備が不要なのだろうか?。

また大都市を除く地方では医師達は所得も低く、生活も楽ではないという。加えて医科大卒業後の医師達には政府公務員として僻地医療の従事義務があるのだが、この数年、その派遣先の定員が少なく、政府の予算不足もあり医科大学卒業後医師資格を取得しても、政府公務員として就職するには4~5年間自宅待機しさるをえない状況が続いている。そのため昨年、我々は卒業した医師達へ共同して働くことが出来、地元へも奉仕が出来る診療所をこのシュエボに建てることにしたつまり我々が奨学生として支援して医師になった彼らが、自宅待機期間にこの診療所で僅かでも生活費を作り、医療知識の向上を計り、地元の貧しい人たちを救うことが出来れば、



「KIBOHクリニック前で開所のオープニングセレモニー」



クラブ有志からクリニックへノートパソコンとプリンターをプレゼント

我々が6年間支援したことが無駄にならないからだ。現状を見て今後も彼らの支援を望む。

その後、往路と同じ少し良くなった道路をひた走りマンダレーへの車中で、当クラブの新奨学生の受け入れは予定通り本年で終了することを医学生達へ説明した。実は当クラブの奨学制度は5年計画で進めてきて本年が最終年度に当たるため新奨学生の受け入れは次年度から停止することになっている。しかし、既存学生のための奨学金は卒業まで支給を確約している。

その新奨学生受け入れ停止の方針に彼らは新奨学生の継続を強く口々に要請してきた。最年長の卒業生の女性医師は「私は貧しくて医科大進学を諦めていたが、この奨学金で大学を卒業でき医師にも成れた。素晴らしい制度だ。」また同じく男性医師は「人生を大きく変えることの出来るこの制度を続けて欲しい」、若き医師となった新卒業生は「ミャンマー国内には奨学金制度は、全くありません。アルバイトも雇用がないから学費を作れない。是非、継続を！」と全ての卒業生と現役学生たちが我々に訴えてきた。

そんな中、僅かな所得しかない卒業生からは、資金提供の申し出まであった。医師として働いた給料から毎月少額であるが積み立てた預金をこの奨学金制度に活用して欲しいとの要望で、我々メンバーはその篤志を驚き、感動した

彼ら医師の給料は公務員であるため給料は月一萬5千円程度だから提供された資金を奨学金資金にするにはほど遠い金額であるが、奨学金が重要且つ貴重な学資と十分分感しているのだろう。

我々の支援目的を彼らが自分たちの力で実践する日が近いことに感激した。



卒業生の医師から要請が！

悪路に揺られながら、そんなやり取りをしマンダレーに着く、王宮近くのレストランで新奨学生2名の認証式と15名の学生たちへ奨学金の支給式を楽しく行う。学生たちは毎年この式典を心待している。彼らは奨学金はもちろんあるが、他に各スポンサーからの贈物を期待しているからだ。事前に学生たちは、eメールなどで希望のものをこちら側へ要請してくるが、この日まで何になるかこちら側からは知らせていない。学生個々の顔を間近に見て、各学生へ今年一年分の奨学金を支給、併せて各スポンサーからの贈物を渡した。

併せて、我が心優しきスポンサー達は、この訪問メンバーへ託し卒業生達へもプレゼントを手渡した。

これらプレゼントは大学の授業で使う聴診器や血圧計などが主である。現地では聴診器も購入可能であるが、現地のものは品質が悪く、聴診器は雜音が多く肺や心臓の音が聞きづらいため日本製の高品質なものを要望してくる。また、血圧計は、まだデジタル式が普及していないなく水銀式を求めてくる。

現地の水銀式血圧計は水銀が漏れるような粗悪なものが多く、安全で高品質な日本製を要望してくる。

我々は日本人は毎年、日本製の技術力や品質の高い評価をミャンマーで再認識でき、貴重なチャンスでもある。

ところで、本年、特に変わった要望は、授業の際、先生の講義を録音できる長時間対応の録音機で動画や画像も閲覧でき音楽も聞くことの出来る「mp4プレーヤー」の希望が届いた。ミャンマーでもインターネットが一部で普及し、学生達は新しいそのIT機器を知っていた。しかし我々中高年のメンバーはこのmp4プレーヤーをそれを知らず、且つ、日本語表示でなく英語表示のものを購入するのに些か苦労した。

さて奨学金支給式後、何時もの交歓のための夕食会とゲーム大会を開催。毎年奨学生たちをこの支給式などに招待している。総勢25名の現役学生や卒業生などでその招待費用は、多人数のため多額な費用が必要だ。そのためこの費用はクラブメンバーの篤志で賄っている。メンバーの支援でこのミャンマー支援が出来ていることに感謝し、この紙面で厚く御礼申し上げたい。

学生たちと交流のためのゲームは毎年bingoゲームで、ミャンマーではこのゲームは殆ど知られて無いが、とても好評だ。賞品は訪問メンバーの寄付で机やタンスの片隅にある不要品など物余りの日本ではあまり使われないもの、例えば、貰い物の折りたたみ傘やノート、ボールペン、カレンダー、手帳など日本製なら非常に喜んでくれる。そんな交流を通し、同行メンバー達は言葉の壁を越えて、笑顔で物心両面から奨学生達を支援をしている。

そして、卒業生や現役学生の素晴らしい笑顔と澄んだ瞳と歓喜の声で、我々の旅の疲れは、どこかへ飛んで行った。

最後にこのミャンマー支援プログラムが形態を変え、新しい組織とシステムで再稼働する動きが出てきていると噂で聞いた。15年も続いた奉仕活動だ。形はどうであれ、是非、ミャンマーと日本の架け橋を継続し国際平和に寄与して欲しいと共に願う。

一一 訪問団長 近藤正俊



診療所の全景 玄関には[KIBOHクリニック]と掲示



棚には医薬品と医療器具



高齢者で混雑する診療所内
ボランティアの看護師もいる。

○クラブ名 2760 地区 西三河中分区 豊田三好ロータリークラブ

○ 会長名 石川道男

○ 国際奉仕委員長名 岡田佳大

○ プロジェクト名 ネパールチェパン小民族に対する貧困撲滅のための事業

○ 実施先国名 ネパール

○ 実施先都市名又は地域名 チタワン県サクティコール村他

○ 実事業費合計金額 (円) 150, 000円

○ プロジェクト概要 健康のためハーブの重要性が高まっている。しかし、

良質のハーブの供給が少ない。良質なハーブができればチェパン族は貧困から

脱出できる。そのため以下の事をするために事業費を使う。

1. 気候に左右されないよう、ビニールハウスを作った。

2. ハーブを直売するため、3つのグループを作り、中間業者と値交渉をし、

売値を上げた。

3. さらに品質を高めるため、良質のハーブを作っている業者、大学のハーブ

専門の先生等に指導を仰いだ。



○ クラブ名 2760 地区 西三河分区 刈谷ロータリークラブ

○ 会長名 嶋津孝久

○ 国際奉仕委員長名 廣根 実

○ プロジェクト名 “刈谷の森づくり” プロジェクト

○ 実施先国名 タイ王国

○ 実施先都市名又は地域名 チェンライ県チェンコーン郡の村

○ 実事業費合計金額（円） 350千円

○ プロジェクト概要

- ・目的→タイ最北部の貧しい村で、地域住民との協働による植林活動を行ない地域の森林を再生すると共に、公益法人才イスカタイによる啓発活動のサポートを得て、自然環境と共生した地域の発展を目指す

- ・期間→2010年～2013年（4年間のプロジェクト）

- ・活動内容→ ①植林活動及び管理作業

※日常の活動及び作業は現地の村人達が行なう！

- ②啓発活動

※オイスカタイが行なう！

- ③現地の人達との交流（定期訪問 1回／年）

”刈谷の森づくりP”2012年度(2012年10月10日～12日)活動風景



タイ現地の看板前にて記念撮影



出迎えてくれた現地の大勢の中学生達



村の皆さん達に教えてもらいながらの作業風景



近くの中学校でも記念植樹



植樹作業のあと、村の皆さん達との記念撮影

○クラブ名 2760 地区 西三河分区 安城ロータリークラブ

○会長名 大見 宏

○国際奉仕委員長名 加藤 正人

○プロジェクト名 カンボジア井戸掘削事業

○実施先国名 カンボジア

○実施先都市名又は地域名 シュムリアップ

○実事業費合計金額（円） 120, 155円

○プロジェクト概要 カンボジア井戸寄贈及び小学校訪問

今年度、安城ロータリークラブは創立55周年と言うこともあり、記念事業として国際奉仕事業を行いました。年度始めから、色々と国際奉仕（支援）出来る国々を関係機関よりお話を聞きながら模索して参りましたが、予算等々の関係でなかなか対称国が見つからず、結果として昨年度同様カンボジアへの井戸寄贈、そして新たに小学校を訪問しての文具等の寄贈を行いました。

3月2日（土）大見宏会長、磯貝廣治副会長、横山真喜男さんと私、加藤正人の4名にて中部国際空港よりハノイ経由にてカンボジアに入りました。

空港から現地ガイドさんの案内でホテルに向かったのですが、ガイドさんの話によりますと、トラックが事故で電柱を折り、前日より市全体が停電しているとの事でした。

ホテル、レストラン、お店などは発電機により何とか営業をしているが、発電機のない所などは休業をしている状態でした。この様に、ライフラインが弱いため、発電機を持っている所が多くあるのには驚きました。

翌日は、アンコールワットのサンライズの見学をしに早起きをして出掛けましたが、途中から雨が降り出してきてしまい、見ることが出来ませんでした。

午前は、アンコールトムへ行き、大変素晴らしい遺跡を見学してきました。

午後からは、東洋のモナリザ、バンテアイスレイにて観光をし、サンセットを見に行きましたが、あと少しの所で雲に隠れてしまい見られませんでした。

三日目、再度サンライズを見に早起きで出掛けました。最初嫌な雰囲気が漂っていましたが、とても感動的なサンライズを見ることが出来ました。

午前は、シュムリアップの村へ井戸の寄贈式に出掛けました。

昨年度とは全く違う村で、とても貧しさを感じさせる村でした。

その村には二基の井戸が作られており、それぞれ素晴らしい井戸で、たくさんの水が出てい

ました。村長さん、村の人々から感謝され、シュムリアップ議会より感謝状をいただきました。そして村長さんから、村にトイレがないから、次はトイレを作ってほしいとお願ひをされました。これがこの国の現状なのです。



井戸寄贈式を終え、小学校へ行きました。この国の中学校は二部制で、朝7時から昼までと、昼から夕方までに分かれて勉強をします。見学したのは2年生のクラスで、とても元気良く国語の授業を受けていました。見学した後に、文具と日本から持ったて行った飴を子供達に渡してきました。みんな大喜びです。



午後からは、アンコールワットの遺跡観光をし、夕食を済ませシュムリアップ国際空港に向かいました。

夜間の便にて、行き同様ハノイ経由にて翌早朝、無事に帰つてまいりました。

大変慌しいスケジュールではありましたが、大変貴重な体験が出来たと思いました。

カンボジアだけではなく、とても想像出来ない貧しい国はたくさんあります。

今後もロータリアンとして、この様な活動をしていきたいと思います。

○クラブ名 2760 地区 西三河 分区 西尾 KIRARA ロータリークラブ

○会長名 青山 弦八

○国際奉仕委員長名 太高純治

○プロジェクト名 ベトナム国際奉仕

○実施先国名 ベトナム

○実施先都市名又は地域名 ハノイ

○実事業費合計金額（円） 300,000円

○プロジェクト概要

今年度R I会長テーマ「奉仕を通じて平和を」の強調事項と当クラブ青山会

長の基本方針の「世界理解と平和推進の国際交流をしよう！」に基づき、米山

学友生のグエン・アン・トアン君が架け橋となる今年度で第3回目となるベ

トナム国際奉仕親善活動を実施しました。

ベトナム・ハノイで身体障害の子供などを教育したり、支援する施設「ビン

ミン(Binh Minh)障害者学校（6歳～15歳の生徒約100名在学中）」を会長始

め会員総数8名で訪問し、障害児には、服、毛布、文房具品等を手渡しました。

た。

ハノイ都中央テレビ：HTV 新聞社 の取材を受ける

ビンミン(Binh Minh)障害者学校の一部の児童へ毛布等手渡している写真



ビンミン(Binh Minh)障害者学校の校長 Mrs. Luu Thi Thu Hong へ支援金の目録を当クラブ青山会長が手渡している写真



第1回国際奉仕・識字率向上委員会議事録

日 時 : 2012年7月11日(水) 15:00~17:00

場 所 : ガバナー事務所会議室

出席者 : ガバナー 千田毅(名古屋東RC)、地区幹事 柳澤幸輝(名古屋東RC)、地区副幹事 柏木功(名古屋東RC)、国際奉仕委員会委員長 佐藤文昭(愛知長久手RC)、国際奉仕委員会副委員長兼識字率向上委員会委員長 鈴木吉男(津島RC)、国際奉仕委員会副委員長 杉浦敏夫(豊田RC)、国際奉仕委員会委員:鈴木宏司(半田南RC)、木村樹生(名古屋南RC)、鳥居剛育(三河安城RC)、岡部努(名古屋北RC)、吉田光一(名古屋丸の内RC)、識字率向上委員会委員副委員長 酒井法丈(豊田RC)、識字率向上委員会委員:堀江英弥(名古屋大須RC)、藤井圓隆(名古屋名駅RC)、岡崎亨(名古屋中RC)、横田徳久(名古屋名北RC) 以上16名

次 第 : 国際奉仕委員長挨拶・・佐藤文昭

ガバナー挨拶・・松前憲典

特別出席者挨拶・・柳澤幸輝地区幹事、柏木功地区副幹事

- 議 題 :
1. 本年度委員会及び委員長会議等スケジュールについて
 2. 国際関連委員会との連携について
識字率向上委員会、グローバル補助金委員会、危機管理委員会等
 3. 地区内各クラブと海外クラブとの係わり(委員長会議においてアンケートの実施)
 4. 2月世界理解月間、3月識字率向上月間の活動について
 5. NAGOYA UNDOUKAIへの協力について
 6. 日泰愛知奨学金基金について(本年度第20回)
 7. リスボン世界大会への参加について
 8. 地区各クラブのWCS活動報告書の作成について・・・東尾張分区、西三河中分区未回収確認
 9. 地区プロジェクトについて(地区一任資金の活用)
サワナケート保健短期大学学生寮改築について・・・佐藤委員長
20,000USDの寄贈による学生寮増築工事について説明
 10. ベトナム・ハノイへの新クラブ立ち上げについて→田中作次RI会長の応援
 11. 委員会役割分担について・・・時間切れにて正副委員長一任事項
 12. 識字率向上委員会の本年度方針・・・鈴木委員長
世界平和フェロー受賞者・水野さんへの全面協力について
 13. 7月27日開催予定地区国際奉仕委員長会議について
名鉄ニューグランドホテル7F、委員会メンバー集合 14:30、
15:00受付開始、16:00~19:00委員長会議並びに懇親会
特別出席者:ガバナー、ガバナー補佐、地区幹事、地区副幹事
主催者:国際奉仕委員長、識字率向上委員長、ホストクラブ愛知長久手RC会長
内容:国際奉仕、識字率向上各委員会の本年度方針発表及びJICA中部事務所紹介並びに
東南アジアの現状について講演
詳細、タイムテーブルは委員長一任
 14. 7月28日開催予定国際関連合同委員会(津島まつり)の詳細説明、18時津島駅前集合
国際奉仕委員会次回開催日 : 2012年8月22日 15:00~17:00
識字率向上委員会次回開催日 : 2012年10月18日 15:00~17:00

開催場所 : 両委員会ともガバナー事務所会議室

2012-13 年度 第3回地区国際奉仕委員会議事録

日 時 : 2012年8月22日(水) 15:00~17:00

場 所 : ガバナー事務所会議室

出席者 : 柳澤幸輝地区幹事、本間 肇ガバナー補佐、柏木 功地区副幹事
佐藤文昭国際奉仕委員会委員長(愛知長久手)、鈴木吉男副委員長(津島)
杉浦敏夫副委員長(豊田)、鈴木宏司(半田南)、村瀬秀和(東海)、木村樹生(名古屋南)、
鳥居剛育(三河安城)、岡部 務(名古屋北)、

次 第 : 国際奉仕委員長挨拶・・・佐藤文昭

本日は役割担当を決める事を中心にお願いします。

ガバナー補佐挨拶・・・本間 肇

国際奉仕委員長会議ではありがとうございました。

報告書は重要である。

地区幹事挨拶・・・・・・柳澤幸輝

援助・協力には国の動きに注意が必要。

議 題 : 担当について

- | | |
|-------------------|----------------|
| ・日泰愛知奨学金基金 | 村瀬秀和 鈴木宏司 |
| ・国際奉仕委員長会議 | 岡部 務 杉浦敏夫 |
| ・国際奉仕委員会 | 杉浦敏夫 |
| ・年間報告書 | 各地区担当 |
| ・議事録 | 名簿順に担当 |
| ・ラオスサワナゲート保険短期大学寮 | 木村樹生 鳥居剛育 |
| ・ハノイロータリークラブ設立 | 杉浦敏夫 岡部 務 |
| ・グローバルグランド | 佐藤文昭 度会尚志 吉田光一 |
| ・地区協議会・アンケート | 度会尚志 吉田光一 |

講 評 : 地区副幹事 柏木 功

- ・活発な委員会でした。
- ・オンラインリスボン 10月20日までに登録の意思表示をお願いします。

次回開催 : 2012年10月3日(水) 15:00~17:00

開催場所 : ガバナー事務所会議室

2012-13 年度 第4回地区国際奉仕委員会議事録

日 時 : 2012年10月3日(水) 15:00~17:00

場 所 : ガバナー事務所会議室

出席者 : 地区スタッフ 各務有一(名古屋東RC)

佐藤文昭国際奉仕委員会委員長(愛知長久手)、鈴木吉男副委員長(津島)

杉浦敏夫副委員長(豊田)、鈴木宏司(半田南)、村瀬秀和(東海)、木村樹生(名古屋南)、

鳥居剛育(三河安城)、岡部 務(名古屋北)、吉田光一(名古屋丸の内)

司会 杉浦敏夫副委員長

次 第 : 国際奉仕委員長挨拶・・・佐藤文昭

本日は多くの協議をしていただきますと共に前回の役割分担で
進めていますので御協力をお願いします。

地区スタッフ挨拶・・・各務有一地区スタッフ

本日は地区メンバーそれぞれが各会議に出向しております、私が
当委員会に出席させていただきます。

議 題 : ①第3回国際奉仕委員会議事録の承認

②議事録作成の担当及び出席者の確認について

名簿順に担当し、欠席の場合には責任を持って他の方に依頼すること。

③委員長より各委員の役割分担(年間報告書の各地区担当)

④サワナゲート保健大学寮について

サワナゲート保健大学について2万\$で(2階建で数百人規模)の基礎部分の提案があるが、
同時にASEAN総合基金(JAIF)から2千万円の建設費用を受けられる決定がなされる
との情報があります。私共の有効な支援、且つ理解が得られるには再考するべき。

相談先のJICA担当者からは他の支援先を紹介することも可能との返事ですのでサワナゲー
ト保健大学の支援を中止して大至急他の支援先を見つける。

⑤台湾でのロータリアン画家の展覧会について

もう少し内容をよく確認して再度報告をする。

⑥3500地区グローバルブランド要請協力について

9人席の車を購入し、子宮頸パップテスト巡回診療車に改装し台湾楊梅に贈る。

台湾D-3500 \$30,000 タイ \$4,000 日本 \$6,000

この件は全員が承認する。

⑦第2回国際奉仕委員長会議での山本先生の新聞記事

地区内のRCにも、もう少し全員にPRをしても良いのではないか。

⑧ベトナムにロータリークラブを作る件について

・ホーチミンは無理ではないか ハノイなら良い

・日本語でのサークル的団体で問題にはならないのでは

・手続きをもう少し確認をしたら良いと思う

⑨その他

11月末に組織が大きく変更になるのでそれに対応して活動をする。

講 評 : 地区スタッフ 各務有一

本日は御苦勞様でした。

次回開催: 2012年11月14日(水) 15:00~17:00

開催場所: ガバナー事務所会議室

2012-13 年度 第5回地区国際奉仕委員会議事録

日 時 : 2012年11月14日 (水) 15:00~17:00

場 所 : ガバナー事務所会議室

出席者 : 本間 肅ガバナー補佐、

佐藤文昭国際奉仕委員会委員長（愛知長久手）、鈴木吉男副委員長（津島）

杉浦敏夫副委員長（豊田）、村瀬秀和（東海）、鳥居剛育（三河安城）、

度会 尚志（豊川宝飯）、木村樹生（名古屋南）、吉田光一（名古屋丸の内）

次 第 : 国際奉仕委員長挨拶・・・佐藤文昭

本日も各担当者より報告お願いします。

ガバナー補佐挨拶・・・本間 肅

各担当者から報告があるようで楽しみです。

議 題 : 1. 第4回国際奉仕委員会議事録の再確認

前回議事録について問題なく確認された。

2. 議事録と出欠の確認

議事録担当は木村樹生、出席者は上述の通りである。

3. サワナゲート保健大学寮について

サワナゲート保健大学には正式にお断りをする。

新しい支援先について早急にJICAに確認する。

4. 台湾でのロータリアン画家の博覧会について

現地の画廊が焼失したため中止となつた。

5. 3500 地区グローバルグランド要請協力について

地区財団委員会にて対応中である。連絡待ち。

6. ベトナムにロータリークラブを作る件について

既にRI理事会の指示のもとオーストラリアのパストガバナーが設立に動いている。

ロータリー研究会で田中 RI 会長と千田ガバナーが話し合いをされる。

7. ベトナム LAM DONG 省 BAOLOC 市 グエンチャイ小学校

12月に現地を視察して決定する。

8. 来年度委員会について

地区より委員会編成が要請されているため委員長に一任されている。

9. 3360 地区のドネーションについて

進展なし

10. その他

国際奉仕委員長会議は各クラブの活動報告とする。

地区協議会はJICA青年海外協力隊の隊員よりお話を聞く。

講 評 : ガバナー補佐挨拶・・・本間 肅

・2時間内容の濃い委員会ができました。来年もがんばりましょう。

次回開催、場所：次回は海外視察と重なるため調整後連絡する。

2012-13 年度 第6回地区国際奉仕委員会議事録

日 時 : 2013年1月9日 (水) 15:00~17:00

場 所 : ガバナー事務所会議室

出席者 : 千田毅ガバナー、柳澤幸輝地区幹事、柏木功地区副幹事

本間毅ガバナー補佐

佐藤文昭委員長 (愛知長久手)、鈴木吉男副委員長 (津島)

杉浦敏夫副委員長 (豊田)、岡部務 (名古屋北)

度会尚志 (豊川宝飯)、木村樹生 (名古屋南)、鈴木宏司 (半田南)

鳥居剛育 (三河安城)

次 第 : 国際奉仕委員長挨拶・・・佐藤文昭

あけましておめでとうございます。委員会も後半に入り、実践の時期に来ました。

(他にミャンマーの現状についての報告)

ガバナー挨拶 ・・・ 千田毅

おかげ様で新年を迎えることができました。田中R I 会長と連絡を取り合う中で、

特に会員増強に力を入れていきたい。来年度のV T Tはカナダと行う事が決定。

議 題 : 1. 第5回国際奉仕委員会議事録の再確認

問題なく確認されました。

2. 議事録と出欠の確認

議事録担当は鳥居剛育、出席者は上記の通り。

3. サワナゲート保健大学寮について

正式にお断りをする。ビエンチャン周辺で他の候補を捜してもらっている。

ジャイカの戸川氏に委員長より依頼。

4. 3500 地区グローバルグランド要請協力について

2件の要請があり、1件目は「花蓮県の障害者施設への通院バス及び治療機器支援」

申請許可がおりており、2760 地区グローバル委員会にて検討中。

もう1件は「子宮頸パップテスト巡回診療車」申請中。

5. ベトナムにロータリークラブを作る件について

進展なし。

6. LAM DONG省BAO LOC市 グエンチャイ小学校

- ①生徒のテーブルとイス ②建物の外装の塗装 ③樹木の世話
- ④学校の修理代 ⑤トイレの修理 ⑥周囲の柵の修理
- ⑦レクレーション区域の整備 ⑧英語教室を2部屋
- ⑨先生のテーブル15、イス35

2012年12月13日に視察。グエンチャイ小学校より上記の要望あり。

当方としては ①トイレの修理 ②パソコン ③プロジェクターを援助する方向で考えた。

次回委員会にて、提案する予定。

7. 3360 地区のドネーションについて

日奏愛知奨学金基金について、利率が6%から3%になったため、2013年の贈呈式は中止になりました。

8. 地区プロジェクトに対する各クラブの資金について

現在計65万円を預っている。各クラブへプロジェクトの内容を報告し、協力を要請。

9. その他

千田ガバナーより・・・3年間パイロット地区として、問題点改善策等をまとめて、国際奉仕委員会の方向性を提案してほしい。

講評：地区副幹事・・・柏木功

おつかれ様でした。本音の討議を見せていただき、後半年で成果が出るよう期待します。

次回開催：2013年2月6日（水） 15:00～17:00

開催場所：ガバナー事務所会議室

2012-13 年度 第 7 回地区国際奉仕委員会議事録

日 時 : 2013年2月6日（水） 15：00～17：00

場 所 : ガバナー事務所会議室

出 席 者 : 千田毅ガバナー、本間毅ガバナー補佐、

各務有一地区スタッフ

◇国際奉仕: 佐藤文昭委員長（愛知長久手）、杉浦敏夫副委員長（豊田）鈴木吉男副委員長（津島）、委員: 鈴木宏司（半田南）、村瀬秀和（東海）、鳥居剛育（三河安城）、岡部務（名古屋北）、

◇識字率向上、（兼）鈴木吉男委員長（津島）、酒井法丈副委員長、委員: 堀江英弥（名古屋大須）、藤井圓隆（名古屋名駅）、岡崎亨（名古屋中）横田徳久（名古屋名北）、森田堅一（名古屋清須）

次 第 : ◇国際奉仕委員長挨拶・・・佐藤文昭

◇識字率向上委員長挨拶・・・鈴木吉男: 本年度で識字率向上委員会は終了します。しかし、
本日配布したパンフレットをよく読んで頂き、いかに識字率向上が大事かよく理解して
頂きたい。日本は平和の国ですが世界は違うという実感を持ってほしい。

◇本間毅ガバナー補佐: 鈴木委員長のお話は大変良いお話なので是非ご理解いただきたい。

議 題 : 1. 第6回国際奉仕委員会議事録の再確認

問題なく確認されました。

2. 議事録と出欠の確認

議事録担当は岡部務、出席者は上記の通り。

3. サワナゲート保健大学寮の代替えについて（木村委員担当）

正式にお断りをする。ビエンチェン周辺で JICA 倉田氏、戸川所長に他の候補を捜して
もらっている。

4. 3500 地区グローバルグラント要請協力について（佐藤委員長担当）

2 件の要請があり、1 件目は「花蓮県の障害者施設への通院バス及び治療機器支援」8000 ドル規模。たまたま昨日 5 日にグローバル通過の知らせ。

もう 1 件は「子宮頸パップテスト巡回診療車」申請中。7 万 2000 ドル規模。当該地区負担は
1 万ドル。

5. LAM DONG 省 BAOLOC 市 グエンチャイ小学校

- ①生徒のテーブルとイス
- ②建物の外装の塗装
- ③樹木の世話
- ④学校の修理代
- ⑤トイレの修理
- ⑥周囲の柵の修理
- ⑦レクリエーション区域の整備
- ⑧英語教室を2部屋
- ⑨先生のテーブル15、イス35

2012年12月13日に視察。グエンチャイ小学校より上記の要望あり。

当方としては ①トイレの修理 ②パソコン 26台 ③プロジェクターとスクリーン 2セットを援助する方向で決定。2万ドル規模。
次回委員会にて、もう少し詳細部分を提案する予定。

6. 地区プロジェクトに対する各クラブの資金について

現在計65万円を預っている。各クラブへプロジェクトの内容を報告し、協力を要請。

昭和ロータリーへ卓話に伺ったところ、すぐ振り込みあった。積極的に推進活動して多くの浄財を国債奉仕に役立てたい。

7. 次年度国際奉仕委員会の日程と国際奉仕委員長会議の日程

4月に地区協議会、5月と7月に国際奉仕委員長会議。9月から国際奉仕委員会を毎月第1水曜日に行う予定。

8. 地区協議会について

3500地区（台湾桃園）地区大会と重なるが、佐藤委員長、杉浦副委員長中心で実施予定。

10. 日泰愛知奨学生基金の今後の取り組み課題。

◇ガバナーから「国際奉仕とグローバルを上手に結びつける方法を確立されたい」

講評：地区スタッフ・・・各務有一

おつかれ様でした。いつも熱心な討議で感心します。

次回開催：2013年3月6日（水） 15:00～17:00

開催場所：ガバナー事務所会議室

2012－13 年度第 8 回地区国際奉仕委員会

平成 25 年 3 月 6 日
ガバナ一分室会議室

国際奉仕委員長挨拶 佐藤文昭
地区幹事挨拶 柳澤幸輝

議事次第

1. 第 7 回国際奉仕委員会議事録の再確認
2. 議事録と出欠の確認
3. サワナゲート保健大学寮の代替えについて
4. 3500 地区グローバルグランド要請協力について
5. LAM DONG 省 BAOLOC 市 グエンチャイ小学校
 1. 男子トイレの修理
 2. パソコン 36 台
 3. プロジェクターとスクリーン 2 セット
6. 地区プロジェクトに対する各クラブの資金について
7. 来年度国際奉仕委員会の日程と国際奉仕委員長会議の日程
8. 地区協議会について
9. 国際奉仕委員長会議について
10. その他

2012-13 年度 第9回地区国際奉仕委員会議事録

日 時 : 2013年4月17日 (水) 15:00~17:00

場 所 : ガバナー事務所会議室

出席者 : 本間 毅ガバナー補佐、柏木 功地区副幹事、佐藤文昭国際奉仕委員会委員長（愛知長久手）
鈴木吉男副委員長（津島）、杉浦敏夫副委員長（豊田）、鈴木宏司（半田南）、村瀬秀和（東海）
木村樹生（名古屋南）、度会尚志（豊川宝飯）、岡部 務（名古屋北）、酒井法丈（豊田）、
堀江英弥（名古屋大須）、藤井圓隆（名古屋名駅）

佐藤文昭国際奉仕委員長挨拶・・・今年度最後の委員会です。よろしくお願ひします。

議 題 : 1) 第8回国際奉仕委員会議事録確認・・・資料参照

2) 議事録と出欠の確認・・・担当鈴木宏司

3) ラオスサイセタ郡病院への支援について・・・資料参照

参加者／本間ガバナー補佐・佐藤・杉浦・鈴木・村瀬・木村

トイレ改修・医療廃棄物保管倉庫建設・スロープ取付 20,000 ドル

4) 3500 地区グローバルグランド花蓮視察について・・・資料参照

参加者／本間ガバナー補佐・杉浦・鈴木・度会・岡部・

身体障害者施設の送迎用車を支援。桃園西門 RC さんに大変お世話になりました。

D3500 地区大会にも参加

5) ベトナム グエンチャイ小学校の視察旅行について・・・資料参照

参加予定／本間ガバナー補佐・佐藤・杉浦

6) 地区プロジェクトに対する各クラブの資金について資料参照

7) 次年度のための地区協議会について・・・資料参照

8) 国際奉仕委員長会議について・・・資料参照

委員会メンバー集合 15時

講 評 : 本間毅ガバナー補佐

・長時間にわたり活発な意見が出て充実した委員会でした。

・ラオス／台湾、良かったです。是非皆さん参加して下さい。

地区副幹事 柏木 功

・次年度地区便覧を見てもう終わったかと思ったら活発な委員会活動をしてみえます。

・残りの活動しっかりやって下さい。

その他 : 新旧合同国際奉仕委員会開催のお知らせ

6月7日（金）東急ホテルにて開催します。後日メール配信します。

国際奉仕委員会 事業報告

国際奉仕委員会委員 度会尚志

2012-13年度2760地区 国際奉仕委員会で4月11日から14日まで台湾・花蓮身障者施設、3500地区大会視察に参加いたしました。目的は私ども2760地区と台湾の3500地区とのグローバルグランドとして、花蓮市にある身障者施設に使用する車を寄贈することです

4月11日 私にとっては久しぶりの台湾訪問です。3500地区桃園西門ロータリークラブの例会に参加させて頂き、18：30ゴング。私どもの為に歓迎会を開いてくれました。桃園西門 RC は設立が新しく、大変若いメンバーです。例会に家族の方も沢山お見えになられており、大変歓待をしてくれました。例会で年に数回家族と共にハイキングを行なっているそうです。家族同志の結びつきの深さや家族を大切にする RC の在り方を感じました。

4月12日 朝早く電車にて花蓮市に向いました。3時間ぐらいかかりました。グローバルグランド事業として障害者施設黎明教養院へ伺いました。この施設には10歳から58歳までの障害者の方が生活をされておりこの2年間で10名の方が自立されたそうです。昼食として彼らが作ってくれた食事をよばれたり、音楽会を開いてくれたり、大変楽しい時間を過ごすことが出来ました。ここの楽団は大変レベルが高く数々の賞を受賞しているそうです。当初花蓮で有名なタロコ渓谷を見学するつもりでしたが長引く雨の為に中止となり、大変残念でした。

4月13日 3500地区の地区大会に参加する事が出来ました。私にとっては他の国の公式行事に参加するのは初めてで大変興奮しました。RI会長に日本の田中作次さんがなられていたこともあり日本人として大変誇りに思いました。大会は大変厳肅であり大変フレンドリーなものでした。特に大会後の懇親会にはそれぞれのクラブが歌や劇を発表する場だと聞き驚きました。留学生の学生たちも一緒に参加し大変楽しい時間を過ごしておりました。この発表の為にクラブが一丸となって一生懸命練習をするそうです。彼らの結びつきの強さもこんなところから生じているんだなと思いました。今回のグローバルグランドに参加させて頂き、台湾のメンバーの本当に暖かい友情にふれあう事が出来ました。

**国際ロータリー 2760地区
2012~2013年度 各クラブの国際奉仕活動一覧**

2013年7月10日

分区	クラブ名	国際奉仕委員長	国際支援	世界社会奉仕	世界大会他地区的地区大会の参加	WCS活動への参加	地区プロジェクトに参加	地区の運営に参加	その他
南尾張分区	半田常東	半田・いき青少年交流協会への支援協力		世界大会参加者募集	世界大会参加者募集	予定はありません	予定はありません		
	滑	タイ障がい児への支援を予定							
	海		タイビン2クラブ→奨学金及びスープキッチン(7月視察予定)			地区に一任 10万円			
	多		タイ3クラブ→水浄化装置の設置(11月訪問予定)						
知分区	東知多								
	半田南		タイ国にてバンコクリオウRCさんの協力で学校へ図書支援活動の実施		予定なし	メンバーへの参加募集・地区国際奉仕委員として参加			
	知多				不参加	不参加	ネバール国への親善訪問を計画		
	大府		タイビン(バーンズエRC)とのWCS事業を継続して行う						
西尾張分区	一宮								
	津島		海外での大規模な自然災害等の発生時に救援金を募る窓口となる	世界大会への参加を奨励	2月に予定	地区一任のWCS委員に申告	なし	姉妹クラブ・台北灘尾RCとの友好について	
	西尾張	西	RJ及び地区的WCS事業に協力参加(毎年地区一括20万円を委託)					台北灘尾RCの創立7周年記念式典への参加を奨励する。	
	稲沢							津島RC創立60周年事業の一つとして台北灘尾RC事業に賛同	
分区	あま		予定なし	予定なし	予定なし	予定なし	予定なし	希望者がいれば参加	国際奉仕活動を休止中
	名古屋	森田堅一	モンゴルランバートルにおいて地区補助金を利用した学校の水道設備の整備	世界大会へ参加					
	尾張中央		姉妹クラブ台湾永和RCとの交流						
	一宮北						協力する 5万円		
東尾張分区	瀬戸				卓話の予定				予算の関係で積極的な活動は予定していない
	犬山	長瀬晴義	教育の援助と両国(日本と台湾)相互理解の発展に若さする事業として、姉妹提携クラブ台湾東洋扶輪社と共に「犬山文庫」を草創製作の図書館、または図書館への寄贈予定。	活動予定					
	江南								
	小牧								
分区	春日井		2013~2014年度は春日井RCの45周年になります。この記念事業として国際支援を現在計画しています。2012~2013年の間に支援活動の実施になります。				予定なし	姉妹の要求があれば参加	
	尾張旭		留学生交流会						2012~2013にかけて、台東轉運の姉妹との連携更新の調査が予定されています。この2ヵ国を訪問する予定です。
	名古屋空港	岩田哲也	海外姉妹クラブとタイアップして現地の教育支援プログラムを行っている	リスボンの世界大会に参加予定	未定	東日本大震災に開催されたプロジェクトを作成・参加を予定	参加する	参加しない	
	瀬戸北		次年度にハイカム&ミストRCと姉妹提携について合意がなされ2013.2調印式を行う予定						極力協力体制
分区	岩倉弘		なし	なし	なし	なし	地区に一任	未定	
	名古屋城北舟橋伸治				卓話の予定				姉妹ローリー台湾仁夢RCとの交流
	愛知長久手						地区に一任	地区に一任	
	名古屋					20万円を拠出			
分区	名古屋西					5万円を拠出			
	名古屋南						参加予定	特になし	サンハウ南RCへの有志10数名の報酬交換旅行が計画されている
	名古屋みなど								サンハウ南RC以外の海外RCとの姉妹提携検討中
	名古屋東南		日本在住の留学生と交流を深める活動	フィジーにおける植林活動等	世界大会への参加の勧誘	世界大会の実施者の趣旨	予定なし	予定なし	開催事務を担当するため、報酬費を含めて海外報酬旅行を検討する。
分区	名古屋中		名古屋財團法人ダイカが運営している「手作りの村」におけるハーバーのムードトレーニングセンターの活動支援	グローバル補助金活用による愛知学院音楽部 夏目教授オスマロ薦製城正支援 現在受入先のハーバーのムードリーダーとの調整中の課題中					
	名古屋瑞穂内田久利		台北延平RCとの事業共有及び親睦		参加予定		予定なし	日程があれば参加したい	
	名古屋大須		グローバル補助金事業(チェンライ)				予定なし	参加を検討	世界平和フォーラム開催地 ハワイ訪問
	名古屋栄		ハンガラティュ国へ継続事業を行う	世界大会へ参加			協力予定	協力予定	書き込みに書きや使用済手を回収し、日本ユネスコに書付をする。
分区	名古屋名駅		当地区扶助金の申請が許可になりハングラティュ国の学校関係者を日本に招き教育種類について研修していただく						
	名古屋名南鈴井一博		特になし	特になし	特になし	特になし			姉妹提携を結んでいる台北ミコムRCとの親睦交流
	名古屋丸之内藤野正敏		カンボジア カンボット州チバアンボウ村への医薬品支援と小中学生と600名へのノート・鉛筆の配布						年1度現状視察のためチウアンボウ村を訪問
	中部みらい店								
分区	名古屋北		未定	未定	未定	未定	世界大会に活動に協力	未定	台北西北RCの創立記念例会に参加
	名古屋東新実宣英		未定	明日の会の設立趣旨に賛同し設置向上資金を提供	国際大会に多数の参加を募る	日程整理ができると既に既に決して	参加しません	参加しません	
	名古屋守山			WCS活動への参加と研究		2月世界理解月間を組合	検討中	検討中	国際友好クラブの研究と設立を目指す
	名古屋和合		かボシアでの小学校建設と、今後の子供教育のための活動支援予定						地区国際奉仕委員会議に出席、東南アジアのRCを訪問して来年の国際奉仕活動に役立つ情報を収集する
分区	名古屋名東								
	名古屋名北		予定なし	予定なし	予定なし	検討中	参加可能なものは参加します	予定なし	2013.5世界フォーラムへの参加予定
	名古屋千種		キャンヘルブタイランド						姉妹クラブの書籍閣ロータークラブとの交流
	名古屋昭和坂本照明								ハリ・タランRCと共にデニハ・サールに設置することを検討中
分区	名古屋錦				世界大会へ参加				
	名古屋東山		特になし	2011~2012年度にベトナムの養護施設への支援をし2012~13年度も継続予定					次年度も韓国の大邱県学生を受け入れるため、ロータリー財団や米山貢委員会とも連携した活動を推進する。
	名古屋美								

			タイ国チェンライ県ラックベンディング村において、山岳民族定住化のため初設焼炭製造機を提供し、 その使用方法を指導する。		予定なし	予定なし	
			また、豊橋ルバーから「あしなが奨学金」を募り、その奨学金による教材他を、 同村の子供達個々に手渡しで教育を支援する				
	蒲 郡			蒲郡997 日高高架橋に川瀬海水浴場に参加		未定	未定
			WFPへの寄付				卓話を予定
東 三 河 分 区	豊 橋 北						WFPについて・日系ブラジル人子弟の教育問題 外国人の就労問題・子供の目から見た地域での共生を学ぶ 社会学的見地から多文化共生を学ぶ
	豊 川 田 原		中華民国・岡山ロータリークラブ、大陸民国・大邱連西ロータリーカブとの国際交流活動。姉妹クラブを通じての世界社会奉仕		不参加	不参加	中華民国・岡山RCに姉妹結び更新調印式を日本で行う予定。
	豊 橋 南 新 城 遷 美	山本医師を通じてベトナム難民への支援活動予定			予定なし	予定なし	
	奥 三 河 豊 川 宝 飯	ケラブ独自では活動なし 地区委員長会議参加 予定なし	WCとして建設の中小学校のWCを建設支援の予定	予定なし	予定なし	予定なし	予定なし
	豊 橋 ゴール デン	この事業は、留学生の日本に対する友好的な認識を深め、永続的な対日親善に寄与する人材となることを期待するとともに、新人教諭が留学生と触れ合うことで、今後の教育現場における青少年の指導に役立ててもらうことを目的としたものです。					
	田 原 バシフィック					参加しません	
	豊 橋 東	韓国中央大学校の学生を招聘する事業を16年続けています。					
西 三 河 中 分 区	岡 崎 豊 田 岡 崎 南 酒 部 住 直	愛知教育大学付属岡崎小学校とハリス校との交換留学事業支援 特になし 特になし	特になし 特になし	特になし 特になし 協力 10万円			20130~20140世界平和7月~弘前への参加(5/17~5/18)
	豊 田 西	韓国慶州サレル園訪問 2012.9予定					
	岡 崎 東 豊 田 東	台湾「光榮育院」訪問による、文具などの寄贈及び子供たちとの交流を継続 アマゾン森林保護植林事業の助成金による支援継続 カンボジア教育事業の助成金による支援継続			不参加 不参加		
	岡 崎 城 南	ミャンマー教育支援プログラム継続実施	毎年2月にミャンマー教育支援プログラムの一環で 医学生へ奨学金の支給のため会員を派遣する	参加を奨励し希望者を募る	当月開内にミャンマーに派遣した全員の 報告会を実施する	不参加 不参加	
	豊 田 三 好	予定				予定なし 予定なし	
	豊 田 中						
西 三 河 分 区	刈 谷 安 城 西 尾 岡 田 雅 彦	廣根実	タイラバティ地区での植林活動継続 予定なし 予定なし	予定なし	世界大会参加を検討	予定なし 予定なし	世界ネットワーク活動グループへの参加を模索
	三 碧 河 一 色 高 知 立				国際大会への出席を援助	未定 予算5万円	碧南市友好親善協会に協力
	西 尾 KIRARA 三 河 安 城	姉妹クラブとの交流	エコキヤップ運動 ハンドルキヤップ で手作りの着物 クラブ独自のプロジェクト (タイ・エンマイ)を考えています。	2月から3月に依頼	世界連絡月間に 国際交流委員会による 卓話を予定	予算5万円	
			タイ チェンマイにて 1.若者のHIV/AIDSに関する知識向上させ予防に向けた正しい選択ができるように支援する ビア教育という手法で効果的に行う 2.先天性心臓疾患児が心臓手術を受けられるように、費用の支援、受術者の選考及び実施計画策定を行う	資金搬出は難しいが、 積極には参加したい			



RI3500地区2012-2013年度

グローバルグラント #25906

花蓮黎明教養院「社區展愛復健車計画」

報告人: Peter Tony Isao

2013/06/19

1

2013/6/19

花蓮黎明教養院「社區展愛復健車計画」



• 目的

花蓮県内多く山間地区の身心障害者にもっとよいサービスを提供するため、専門先生チームから主動的に山間部の身心障害者に連携して、自宅介護・自宅復建と運動指導等を提供し、身心障害者が自分馴染みの環境でよい介護がいただけます。

そのため、国際ロータリの3500地区・2760地区（日本の名古屋地区）と桃園県西門クラブの協力により、1台百万台灣ドルぐらいの復建車及び20数万台灣ドルの生活輔具を黎明教養院の専門先生たちは山間部の身心障害者へ介護を提供することができました。



花蓮黎明教養院「社區展愛復健車計畫」



• 贈答品一覽表

復健車							
項次	品名	規格	單價	數量	單位	小計	備註
1	GRAND LIVINA (NISSAN)	1,800cc 7人座	707,760	1	台	707,760	
2	電動轉向座椅 +可分離式輪椅	含客制座椅 一張	300,000	1	式	300,000	
3	ナンバープレート 関連費用		17,240	1	式	17,240	
小計：						1,025,000	稅込
生活輔具							
共25項產品 207,930元							
合計：NTD 1,232,930元 (US\$ 42,500元)							



グローバルグラント#25906申請の経歴

